



Clavinova[®]

CLP-880

CLP-860

CLP-860M

CLP-840

CLP-820

安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器の裏側に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	--

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。


⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

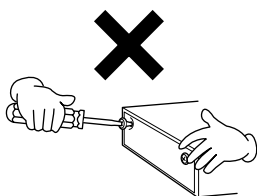
* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


警告


この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。


 この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。


感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。




 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。

 電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。


 電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。


 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

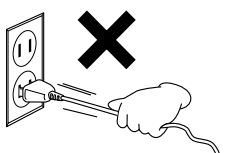
 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。


注意


この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

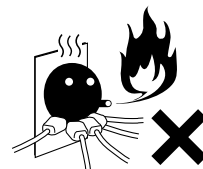
 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

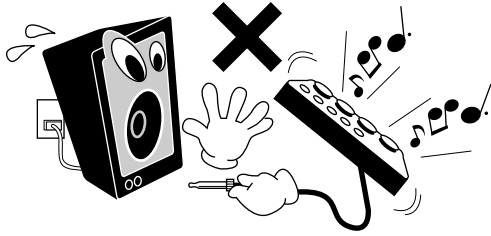


 タコ足配線をしない。音質が悪化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。

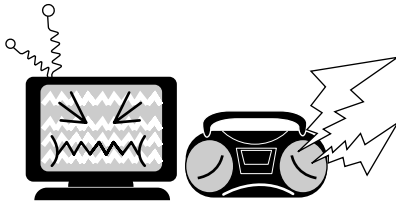
 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。



- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。感電または機器の損傷のおそれがあります。



- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



- ⊘ 不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。
- ⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ⊘ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ⚠ キーカバーで指などははさまないように注意する。また、キーカバーのすき間に手や指を入れない。お客様がけがをされるおそれがあります。
- ⊘ キーカバーや鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

- ⊘ 本体を壁につけない。換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。
- ❗ 組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。

イスについて

- ⊘ イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスには二人以上ですわらない。イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスにすわったままでイスの高さを調節しない。イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

メモリーバックアップについて

- ❗ この機器は、バックアップの設定(P43)によって、各種の設定内容を、電源を切ったあと約1週間保持することができます。約1週間以上過ぎるとバックアップされている内容は消えてしまいますので、少なくとも1週間以内に数分間は電源を入れてください。


作成したデータの保存について

- ❗ 作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、ヤマハMIDIデータファイラーMDF3などの外部機器に保存することをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

*この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

このたびは、ヤマハクラビノーバCLP-880/860/860M/840/820をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。CLP-880/860/860M/840/820の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、本書をご活用いただきますようご案内申し上げます。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してくださいませよう、お願い申し上げます。

付属品(お確かめください)

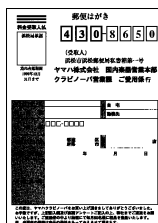
保証書



ヘッドフォン



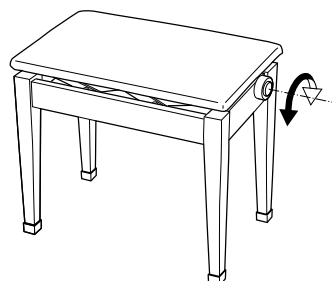
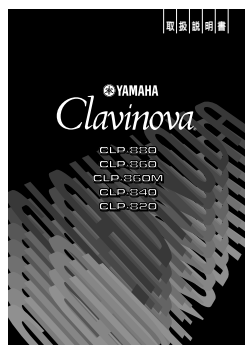
ご愛用者カード



高低自在イス BC-15

ご自分の演奏しやすい高さに調節してお使いいただけます。

取扱説明書(本書)

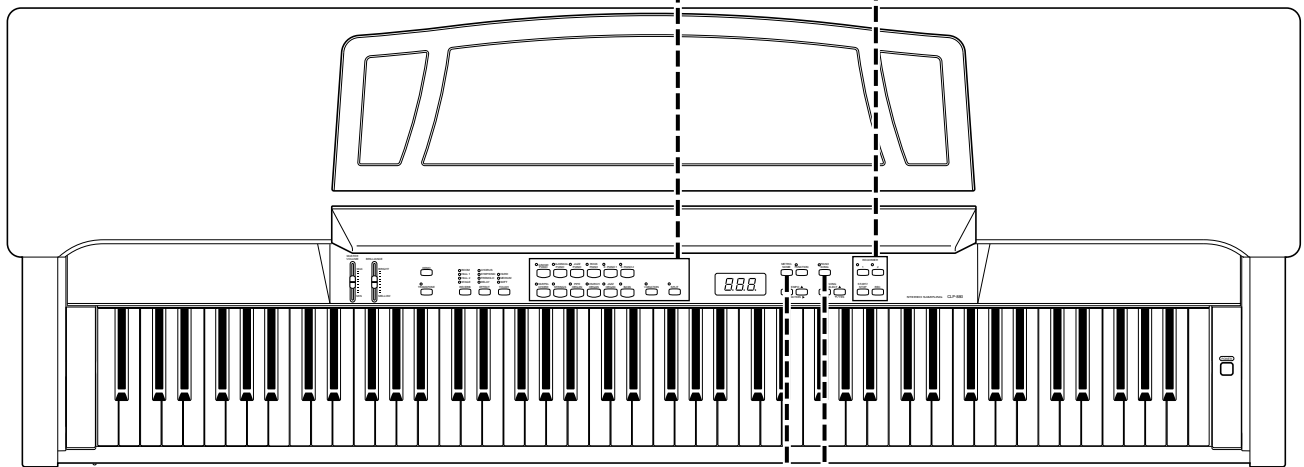


クラビノーバでこんなことができます

リアルなピアノ音色と、
リアルなタッチで、本格的なピアノらしい演奏が楽しめます。

ピアノ以外の音色でも演奏できます。
(P22 ~ P28、P52)

ご自分の演奏を録音/再生できます。
(P29 ~ P34)



(CLP-880)

「音量調節ができる」
「ヘッドフォンで練習できる」
「軽量コンパクト」
「調律不要」
と、便利で経済的です。

本体にピアノ50曲の演奏データが入っています。これらを鑑賞するだけでなく、便利な練習機能を使って練習することもできます。
(P17 ~ P21、P53)

メトロノーム機能が、練習のお役に立ちます。(P28)

取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます

この本は、「準備」「本編」「付録」の3部構成になっています。

- **準 備** / 最初にお読みください。
- **本 編** / クラビノーバの機能を詳しく説明しています。
- **付 録** / クラビノーバをMDP1α(「伴奏くん」)と組み合わせて楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

表記上の決まり

【 】 : パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック(端子)といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で【MASTER VOLUME】と表記します。

・本書では、以下に示すような矢印を使って操作の結果と手順を区別しています。

⇨	の操作を行った結果、 (操作の結果を示します。)	の状態になることを示しています。
➡	の操作を行ったあと、 (操作の手順を示します。)	の操作を示しています。

パネルのイラストは、CLP-880を使用します。

この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

本文中では、CLP-860とCLP-860Mを代表してCLP-860と表記します。また、各モデル名を省略し、「クラビノーバ」と表記することがあります。

目次

準備

安全上のご注意	巻頭
付属品(お確かめください)	4
クラビノーバでこんなことができます	5
取扱説明書(本書)はこんなふうに お役に立ちます	6
ご使用前の準備	8

本編

各部の名前	12
操作の基本と共通機能	15
デモ曲/ピアノ曲を楽しむ	17
デモ曲を聞く	18
ピアノ50曲を聞く	19
ピアノ50曲の片手練習	20
ピアノ50曲の部分練習	21
音色を選んで弾く	22
音色を選ぶ	22
ペダルを使う	22
音に変化を付ける...【 <small>バリエーション</small> VARIATION】/ 【 <small>ブリリアンス</small> BRILLIANCE】CLP-880/860/840) / 【 <small>リバーブ</small> REVERB】/【 <small>エフェクト</small> EFFECT】CLP-880/860/840)...	23
【 <small>タッチ</small> TOUCH】	24
【 <small>トランスポーズ</small> TRANSPOSE】	25
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)	26
「スプリット」で弾く(鍵盤を左右に分けて 別々の2つの音色で弾く) CLP-880/860).....	27
【 <small>メトロノーム</small> METRONOME】を使う	28
演奏の録音(記録)	29
録音の手順(1つのトラックへの録音)	29
録音し直す場合	30
続いて2つめのトラックへ録音する場合	31
録音(記録)されるデータの種類	31
初期値の変更	32
録音上の注意	32
録音した曲の再生	33
再生の基本手順	33
再生に関する便利な機能	33

ファンクション	35
ファンクションでの基本操作	36
各ファンクション項目の説明	37

【CLP-880/860】

・ F1. 音程の微調整	37
・ F2. 音律(調律法)の選択	37
・ F3. デュアルの諸設定	38
・ F4. スプリットの諸設定	39
・ F5. ペダルの諸設定	40
・ F6. メトロノーム音量の設定	40
・ F7. ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	40
・ F8. <small>ミディ</small> MIDI機能の諸設定	41
・ F9. <small>オン/オフ</small> バックアップON/OFFの設定	43

【CLP-840/820】

・ F1. 音程の微調整	37
・ F2. 音律(調律法)の選択	37
・ F3. デュアルの諸設定	38
・ F4. 左ペダル機能の設定	39
・ F5. メトロノーム音量の設定	40
・ F6. ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	40
・ F7. <small>ミディ</small> MIDI機能の諸設定	41
・ F8. <small>オン/オフ</small> バックアップON/OFFの設定	43

他の機器と接続する端子	44
パーソナルコンピューターとの接続	46
故障かな?と思ったら	48

付録

MDP1α(「伴奏くん」)を使って ディスクソフトを楽しむ	50
<small>ミディ</small> MIDIについて	51
音色のご紹介	52
デモ曲 曲名一覧表	53
基本設定一覧表	54
<small>ミディ</small> MIDIデータフォーマット	55
<small>ミディ</small> MIDIインプリメンテーションチャート	58
別売品のご紹介	59
仕様	59
CLP-880の組み立て方	60
CLP-860/840/820の組み立て方	64
索引	66
保証とアフターサービス	67

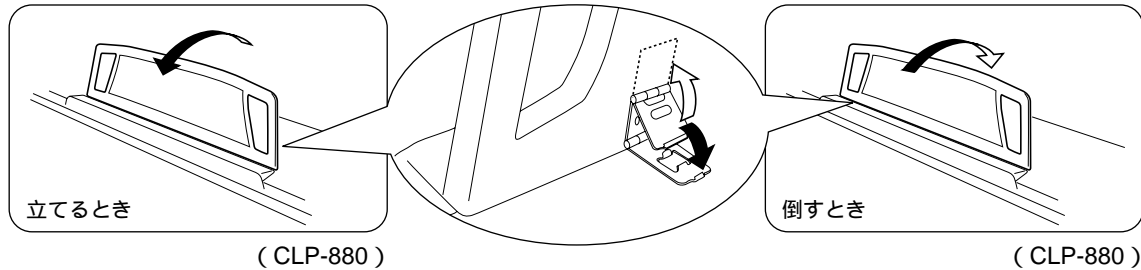
ご使用前の準備

■ 譜面立てについて

立てるとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を、下向きに開きます。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。

図のように、金具が固定される位置によって、譜面立ての角度を3段階に調節できます。
金具は、左右共同じ位置に固定してください。



倒すとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を、上向きに閉じます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

⊘ 譜面立ては、金具が固定されない位置で使用または放置しないでください。
また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

■ キーカバーについて

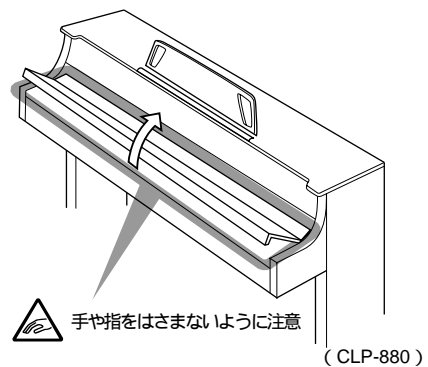
CLP-880(回転式)

開けるとき

キーカバーの前側に両手を添えて、静かに持ち上げて開けます。

閉めるとき

両手を添えて、静かに閉じます。



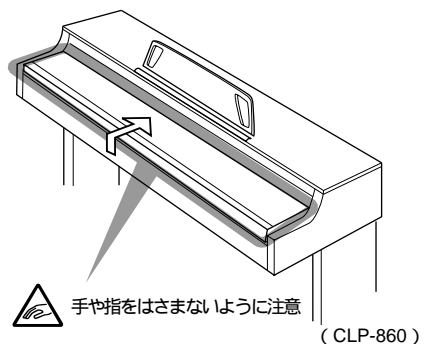
CLP-860/840/820(スライド式)

開けるとき

1. 少しだけ持ち上げます。
持ち上げすぎないように、ご注意ください。
2. 奥へすべらせて開けます。

閉めるとき

1. 下へすべさせます。
2. 手を添えたまま静かに降ろします。



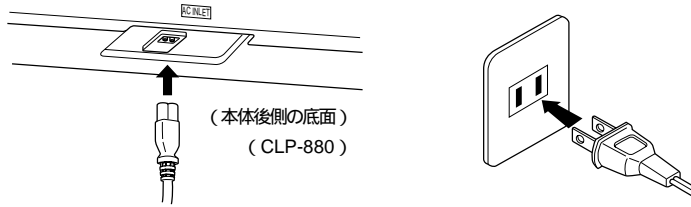
⚠ キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行き、途中で手を離さないでください。
また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。

⊘ キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

■ 電源を入れる

1. 電源コードを接続する

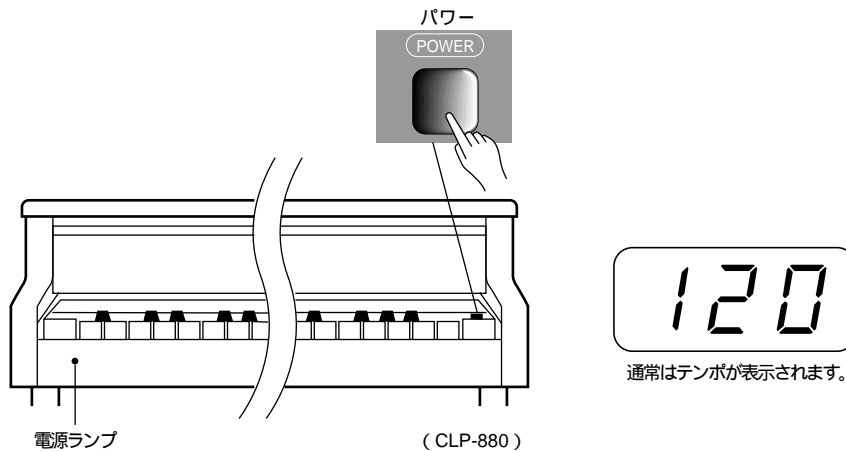
最初に本体側のプラグを差し込み、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。



2. 電源を入れる

本体パネル右の【POWER】を押すと

☞ 電源が入ります。本体パネル中央のディスプレイに表示が表れます。また、本体前面左の電源ランプも点灯します。

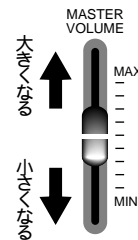


電源を切るときは、もう一度【POWER】を押します。

☞ ディスプレイの表示が消え、本体前面左の電源ランプも消灯します。

■ 音量(ボリューム)調節

本体パネル左の【MASTER VOLUME】を上下に動かして調節します。実際に鍵盤を弾いたりなど音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER = 全体を制御する
VOLUME = 音量

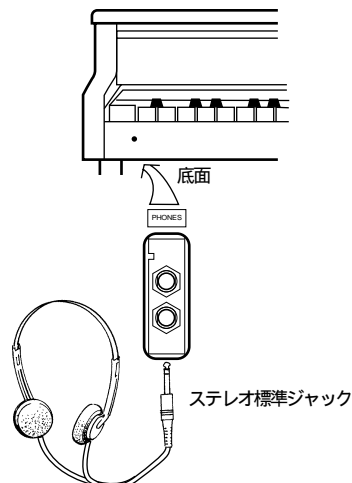
【MASTER VOLUME】で、
【PHONES】の出力レベルやAUX IN
からの入力レベルも調節できます。

■ ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォンを【PHONES】端子に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとクラビノーバ本体のスピーカーからは音が出ません。

また、【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。(1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。)



別売ヘッドフォン...
YAMAHAヘッドフォン HPE-160
(税別価格: 5,500円)

POWER = 電力、電気

電源ランプについて...

クラビノーバのご使用后、電源を切り忘れてキーカバーを閉めてしまった場合、電源ランプの点灯が、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

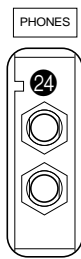
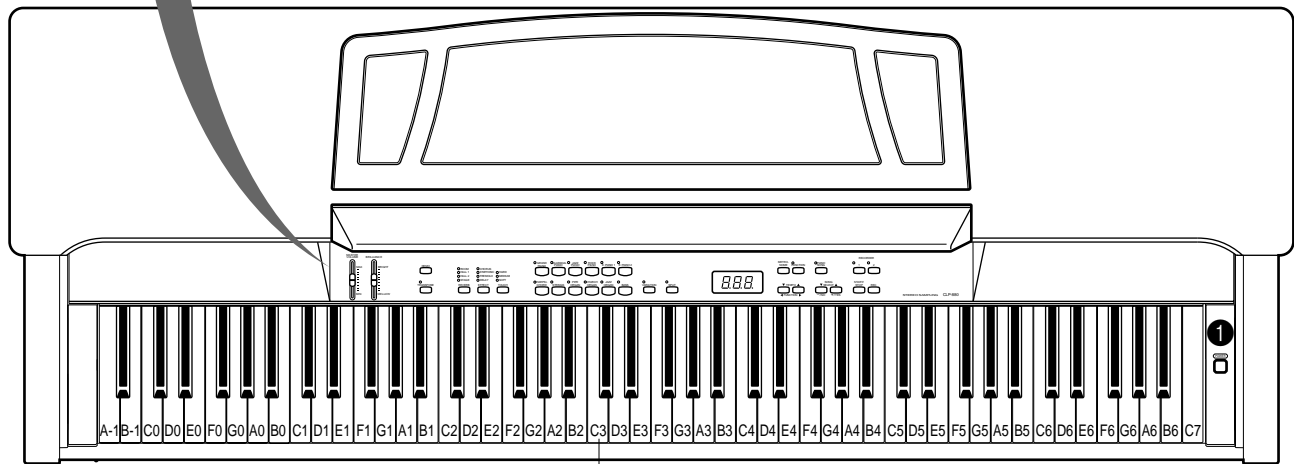
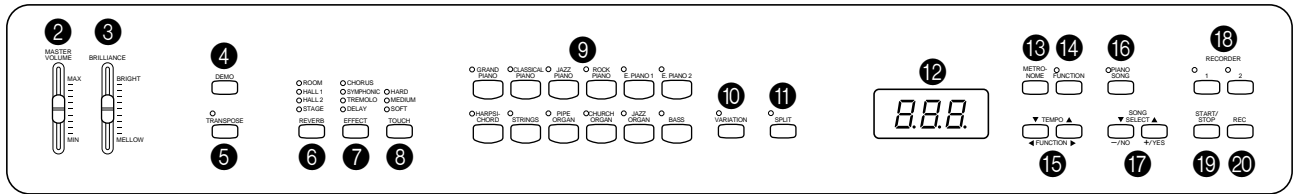
本編

クラピノーバの機能を詳しく説明しています。

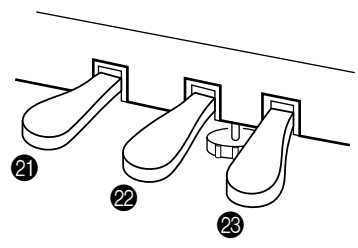
各部の名前	P12	ファンクション	P35
操作の基本と共通機能	P15	ファンクションでの基本操作	P36
デモ曲/ピアノ曲を楽しむ	P17	各ファンクション項目の説明	P37
デモ曲を聞く	P18		
ピアノ50曲を聞く	P19	【CLP-880/860】	
ピアノ50曲の片手練習	P20	・F1. 音程の微調整	37
ピアノ50曲の部分練習	P21	・F2. 音律(調律法)の選択	37
音色を選んで弾く	P22	・F3. デュアルの諸設定	38
音色を選ぶ	P22	・F4. スプリットの諸設定	39
ペダルを使う	P22	・F5. ペダルの諸設定	40
音に変化を付ける...【VARIATION】/ アリアンス 【BRILLIANCE】CLP-880/860/840) / リバーブ エフェクト		・F6. メトロノーム音量の設定	40
【REVERB】【EFFECT】CLP-880/860/840) ...	P23	・F7. ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	40
【TOUCH】	P24	・F8. MIDI機能の諸設定	41
【TRANSCOPE】	P25	・F9. バックアップON/OFFの設定	43
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く) ...	P26	【CLP-840/820】	
「スプリット」で弾く(鍵盤を左右に分けて 別々の2つの音色で弾く) (CLP-880/860) ...	P27	・F1. 音程の微調整	37
【METRONOME】を使う	P28	・F2. 音律(調律法)の選択	37
演奏の録音(記録)	P29	・F3. デュアルの諸設定	38
録音の手順(1つのトラックへの録音)	P29	・F4. 左ペダル機能の設定	39
録音し直す場合	P30	・F5. メトロノーム音量の設定	40
続いて2つめのトラックへ		・F6. ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	40
録音する場合	P31	・F7. MIDI機能の諸設定	41
録音(記録)されるデータの種類	P31	・F8. バックアップON/OFFの設定	43
初期値の変更	P32	他の機器と接続する端子	P44
録音上の注意	P32	パーソナルコンピューターとの接続	P46
録音した曲の再生	P33	故障かな?と思ったら	P48
再生の基本手順	P33		
再生に関する便利な機能	P33		

各部の名前

トップパネル(CLP-880)



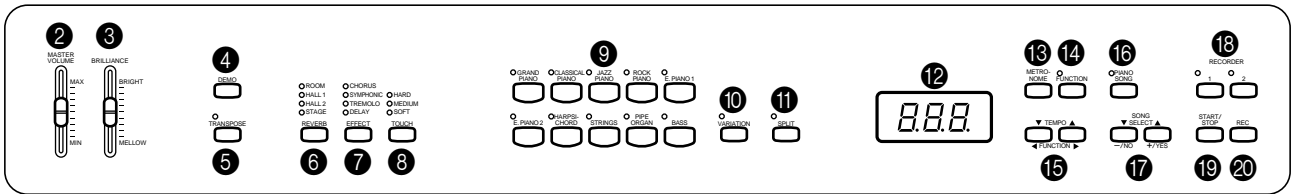
中央の「ド」



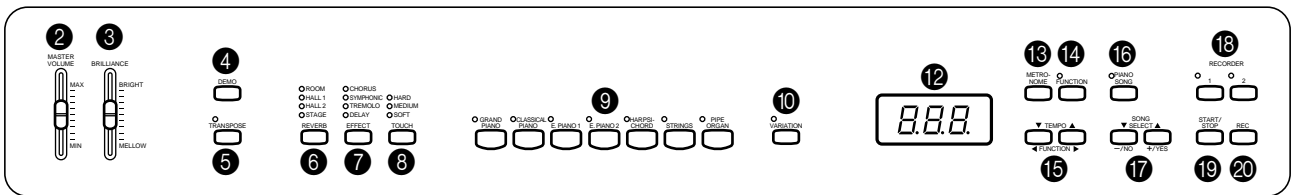
- ①【POWER】..... P9
- ②【MASTER VOLUME】..... P9
- ③【BRILLIANCE】(CLP880/860/840)..... P23
- ④【DEMO】..... P17
- ⑤【TRANSPOSE】..... P25
- ⑥【REVERB】..... P23
- ⑦【EFFECT】(CLP880/860/840)..... P24
- ⑧【TOUCH】..... P24
- ⑨音色ボタン..... P22
- ⑩【VARIATION】..... P23
- ⑪【SPLIT】(CLP880/860)..... P27
- ⑫ディスプレイ..... P15
- ⑬【METRONOME】..... P28
- ⑭【FUNCTION】..... P35 ~ 43
- ⑮【TEMPO】 /
【<>FUNCTION<>】..... P15、36
- ⑯【PIANO SONG】..... P17
- ⑰【SONG SELECT】 /
【- /NO】 + /YES】..... P15、36

本編

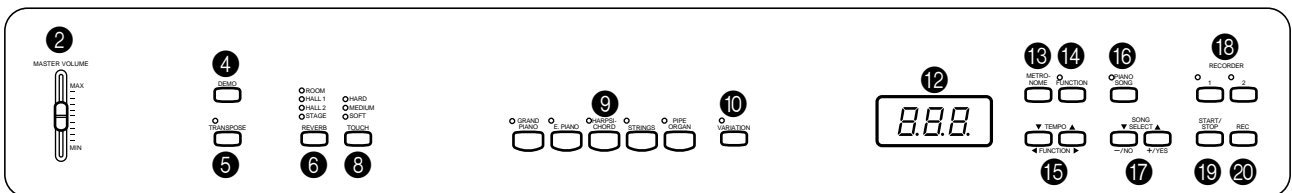
トップパネル(CLP-860)



トップパネル(CLP-840)



トップパネル(CLP-820)



レコーダー ⑱ RECORDER

【1】【2】…………… P30、33

スタート/ストップ
⑲【START/STOP】…………… P18～21、30、33

レコード
⑳【REC】…………… P29

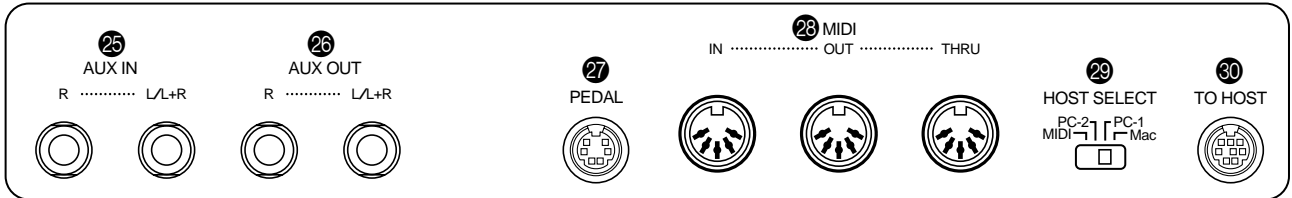
⑳ 左のペダル(ソフトペダル)…………… P23

㉑ まん中のペダル(ソステヌートペダル)…………… P23

㉒ 右のペダル(ダンパーペダル)…………… P22

フォーンズ
㉔【PHONES】…………… P44

リアパネル



②⑤ ^{イン}AUX IN【R】**【L/L+R】**…………… P43

②⑥ ^{アウト}AUX OUT【R】**【L/L+R】**…………… P43

②⑦ ^{ペダル}【PEDAL】…………… P58～61

②⑧ ^{ミディ イン アウト スルー}MIDI【IN】**【OUT】**【THRU】…………… P43、49

②⑨ ^{ホストセレクト}HOST SELECT…………… P43～45

③⑩ ^{トゥーホスト}【TO HOST】…………… P43～45

操作の基本と共通機能

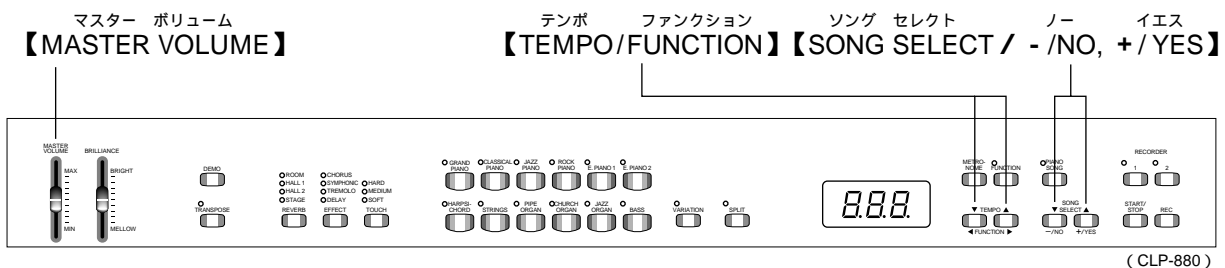
取扱説明書の「本編」をお読みいただく上で必要な「操作の基本と共通機能」を説明します。必ずお読みください。

■ 操作の基本

操作の基本はパネルのボタンを押すだけです。
操作の結果をパネル中央のディスプレイで確認しながら進めてください。
場面に応じて、たとえば下記のような表示になります。



■ いろいろな場面でよく使うボタン



【MASTER VOLUME】

音量を調節します。

【TEMPO/FUNCTION】

この2つのボタンは、場面に応じて下記のように異なる働きをします。

・ TEMPOの調節

メロノームを使うときや、ピアノ曲、録音した曲の再生時のテンポを調節します。ボタンを押し続けると値が連続して変わります。【**】**を同時に押すと、標準テンポ(録音した曲に設定されているテンポ、または120)に戻ります。

・ FUNCTION項目の選択

ファンクションの項目を選びます(P36)

【SONG SELECT / - / NO, + / YES】

・ SONGの選択

ピアノ50曲の曲を選びます。ボタンを押し続けると曲番号が連続して変わります。

・ - / NO, + / YES機能

各種の値を設定、選択したり、操作の実行(YES)や中止(NO)を行います。ボタンを押し続けると値が連続して変わる場合があります。そのとき、項目によって最大値、最小値でストップする場合と、循環して変わる場合があります。【**】**と【**】**を同時に押すと、基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。

メモリーバックアップについて

基本設定(工場出荷時の設定)では、バックアップはすべてOFF(バックアップされない)になっています。バックアップON/OFFの設定は、ファンクションで設定内容のグループごとに任意に切り替えることができます(P43)。ただし、「メモリーに録音された演奏データ」及び「バックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

バックアップの設定をONにしても、電源を切って約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

クラビノーバの機能の全体構成

大きく下記3つの機能があります。

演奏に関する機能(P22～P28)

録音/再生に関する機能(P29～P34)

ファンクションの各機能(P35～P43)

ファンクションとは...

クラビノーバをお使いいただく上での各種の設定を、ご自分の使いやすい状態に設定する機能です。特に設定をしなくても工場出荷時に基本的な設定になっていますが、特に独自の設定をしたいときに、ご利用ください。

また、各種の応用的な操作がファンクションにまとめられています。(P35～P43)

メモリーとは...

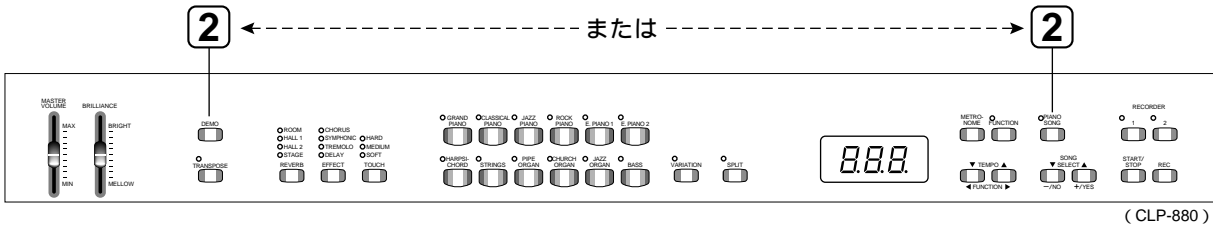
いろいろな設定や録音データが記憶される、クラビノーバ本体内部の記憶装置のことです。

バックアップとは...

メモリーに記憶されている内容を電源を切っても消さずに残しておくことを言います。バックアップをONにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。バックアップをOFFにしておくと、次回電源を入れたときは基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。基本設定一覧表がP54に掲載されています。

デモ曲/ピアノ曲を楽しむ

クラビノーバには、音色ごとに1曲ずつのデモ曲と、ピアノ名曲50曲が入っています。聞いてみましょう。ピアノ名曲50曲では、右手または左手部分を再生OFFにしてご自分で練習したり、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)したりすることができます。



操作

1 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合)【POWER】を押します。

⇒ 電源が入ります。

音量はあとでデモ曲/ピアノ曲を実際に再生して聞きながら調節しますが、とりあえず【MASTER VOLUME】を中程まで上げておきます。

2 デモ曲/ピアノ曲モードに入る

デモ曲モード

パネル左ブロックの【DEMO】を押します。

⇒ 音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

ピアノ曲モード

パネル右ブロックの【PIANO SONG】を押します。

⇒ 【PIANO SONG】のランプが点灯します。

このあと、音色デモ曲の聞き方と、ピアノ名曲50曲(以降「ピアノ50曲」と呼びます)の聞き方/楽しみ方に分けて説明します。

デモ曲の曲名リスト...

音色ごとのデモ曲には、各音色の特長がよくわかる曲が選ばれています。デモ曲の曲名一覧表をP53に掲載しています。

デモ曲/ピアノ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲/ピアノ曲モード中はMIDI受信を行いません。

録音モード(P29)のときと、曲の再生中(P33)は...

デモ曲/ピアノ曲モードには入れません。

モードとは...

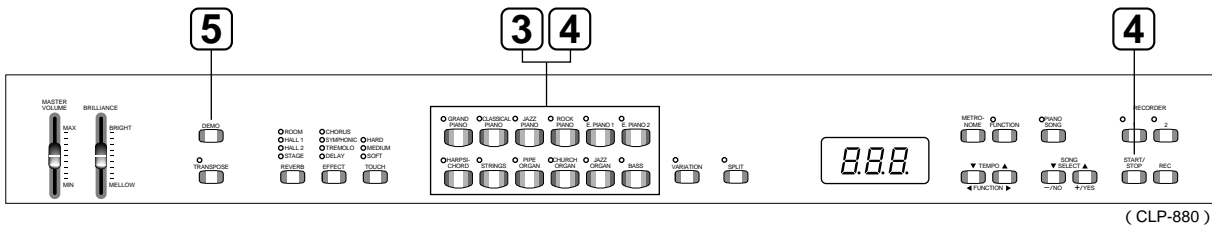
ある機能を実行できる状態を意味します。たとえば、ファンクションという機能を使える状態のことをファンクションモードと言います。

また、「種類」とか「方式」という意味に使われる場合もあります。

SONGとは...

クラビノーバでは、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲/ピアノ曲も演奏データです。

■ デモ曲を聞く



(CLP-880)

P17の操作 1、2に続いて

3 選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。(音色ボタンを押さずに【START/STOP】を押すと、GRAND PIANOの曲が再生されます。)

⇒ デモ曲の再生がスタートします。その後、ストップするまで別の音色のデモ曲が連続して再生されます。

音量の調節

デモ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

4 再生ストップ

再生をストップする場合は、【START/STOP】が再生中の音色ボタン(再生中は点滅しています)を押します。

5 デモ曲モードを抜ける

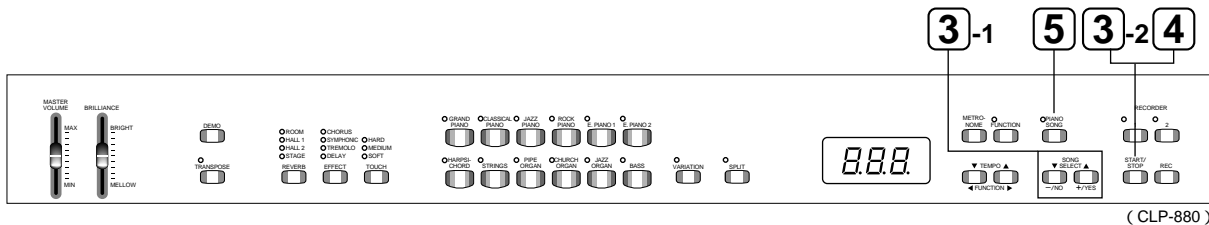
【DEMO】を押します。

⇒ 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

デモ曲では、テンポの調節や「片手練習 (P20)」「部分練習」(P21)はできません。

【BRILLIANCE】CLP-880/860/840のP23を切り替えることもできます。

■ピアノ50曲を聞く

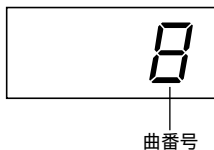


(CLP-880)

P17の操作 1、2に続いて

3 選曲と再生スタート

3-1 【^{ソング セレクト}】SONG SELECT【】を押して、聞くピアノ曲を選びます。



1 ~ 50: 聞く曲番号を指定します。

1曲だけ再生するモードです。

オール
ALL: ピアノ50曲を順番に連続再生するモードです。

ランダム
rnd: ピアノ50曲を順不同に連続再生するモードです。

3-2 【^{スタート/ストップ}START/STOP】を押すと再生がスタートします。

音量の調節

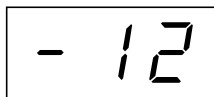
ピアノ曲を聞きながら【^{マスター ボリューム}MASTER VOLUME】で音量を調節します。

テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが

【^{テンポ}】TEMPO【】を押してテンポを変更できます。

【**X**】を同時に押すと元のテンポに戻ります。



操作時、元のテンポに対してのプラスマイナスの値(-50 ~ 50)で表示されます。(曲によって増減幅は異なります。)元のテンポのときは「」と表示されます。

4 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、【^{スタート/ストップ}START/STOP】を押します。

・続いて他の曲を再生する場合は、操作3に戻ります。

5 ピアノ曲モードを抜ける

【^{ピアノ ソング}PIANO SONG】を押します。

⇒【PIANO SONG】のランプが消灯します。

手弾き音と再生音用に
【BRILLIANCE】CLP-880/860/
840 X P23【REVERB】P23 を、
手弾き音用に【EFFECT】CLP-
880/860/840 X P24【TOUCH】
(P24 を切り替えることもできます。
【REVERB】は新しい曲を選ぶと
(または、連続再生で新しい曲がス
タートすると【HALL1】になります。

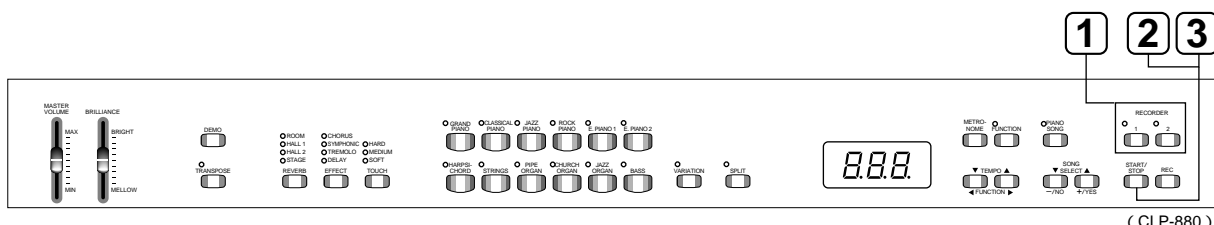
再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

テンポのリセット(再設定)...
新しい曲を選ぶとまたは、連続再生で新しい曲がスタートするとテンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

次に、ピアノ50曲の、右手または左手部分を再生オフしてご自分で練習する方法(片手練習)と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

ピアノ50曲の片手練習

ピアノ50曲では、右手パートと左手パートが別々のトラックに入っています。それぞれを再生ON/OFFし、再生OFFしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが【1】に、左手パートが【2】に入っています。(一部、連弾アレンジになっていて【1】と【2】が連弾のパート別になっている曲があります。)



(CLP-880)

操作

1 練習するパートの再生をOFFにする

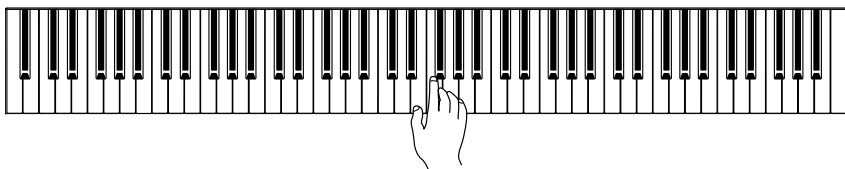
選曲したあと【1】【2】の再生OFFしたい方を押します。(選曲した時点では【1】【2】共ランプが点灯しています。)

⇒ 押した方のボタンのランプが消灯します。

・ それぞれのボタンは、押すごとに再生ON/OFFが切り替わります。

2 再生スタート/演奏

【START/STOP】を押して再生をスタートします。再生OFFしたパートをご自身で演奏してください。



弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

再生ONのパートのボタンを押したまま【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

⇒ ディスプレイにシンクロスタートのマーク「2」が現れます。



曲番号
シンクロスタートのマーク

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。

ファンクション(P40)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルの【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。

3 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、【START/STOP】を押します。

オールランダム ALLとrnd(P19)のときはできません。

再生中の、パートごとの再生ON/OFF...

再生中でも、パートごとの再生ON/OFFを切り替えることができます。

再生OFFしたパートの音量調節... 再生OFFしたパートは演奏タイミングのガイドのために、完全に音を消すのではなく、少しだけ音を出しています。この音量加減の調節や、完全に音を消す設定が、ファンクション(P40)でできます。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

再生OFFのパートのボタンを押したまま【START/STOP】を押すと...

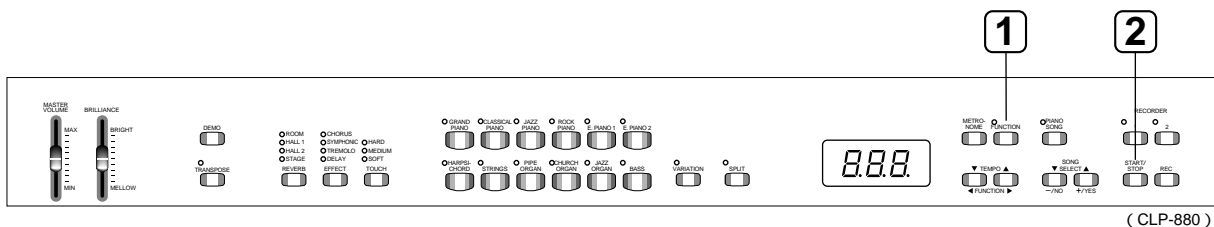
そのパートの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

パート再生のリセット(再設定)...

新しい曲を選ぶと自動的に両パート共再生ONにリセットされます。

ピアノ50曲の部分練習

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)することができます。前ページの「ピアノ50曲の片手練習」もいっしょにお使いいただけます。



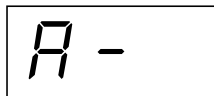
(CLP-880)

操作

1 フレーズの始まり(A点)と終わり(B点)の指定と練習スタート

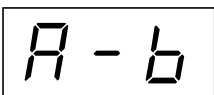
選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで【FUNCTION】^{ファンクション}を押します。

⇒ 始まり(A点)が設定され、ディスプレイに **A-** と表示されます。

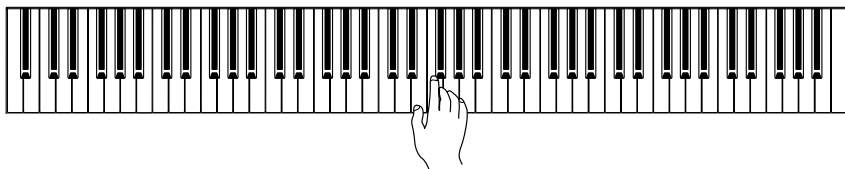


続いて、終わり(B点)にしたいところでもう一度【FUNCTION】^{ファンクション}を押します。

⇒ 終わり(B点)が設定され、ディスプレイに **A-b** と表示されます。



同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



2 練習ストップ

A点、B点の設定を保持したまま一時練習をストップするときは【START/STOP】^{スタート/ストップ}を押します。(この場合、再度【START/STOP】^{スタート/ストップ}を押すと、再びA点～B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除するときはもう一度【FUNCTION】^{ファンクション}を押します。

オール ランダム ALLとrnd(P19)のときはできません。

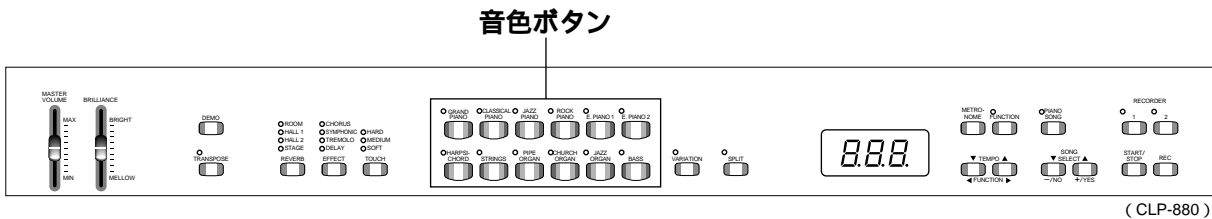
曲の先頭から繰り返しを始めたときは...

再生をスタートする前に【FUNCTION】^{ファンクション}を押して始まり(A点)を設定します。

新しい曲を選ぶと... A点、B点は自動的に解除されます。

音色を選んで弾く

音色を選ぶ

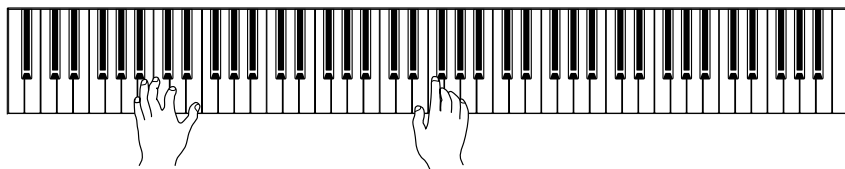


(CLP-880)

操作

使いたい音色ボタンを押します。
 ⇨ ランプが点灯します。

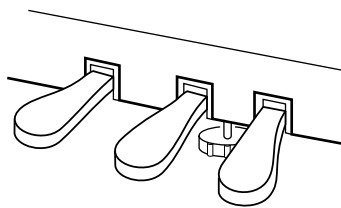
【MASTER VOLUME】で音量を調節しながら演奏してください。



音色の特長を掴むには...
 音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。
 (P18)

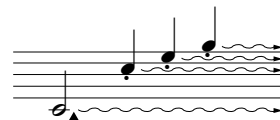
ペダルを使う

3本のペダルの使い方を説明します。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。



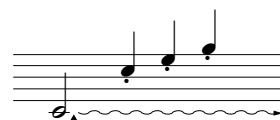
ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

CLP-880/860では【GRAND PIANO】^{グランドピアノ}【CLASSICAL PIANO】^{クラシカルピアノ}【JAZZ PIANO】^{ジャズピアノ}の音色で、ダンパーペダルを踏んだときに、響板や弦の共鳴効果が加わります。さらに、CLP-880/860のダンパーペダルは、踏み込むほど余韻が長くなる連続可変式(8段階)になっています。

CLP-880/860では...
 ファンクションでダンパーペダルのこれらの設定を変更できます。
 (P40)

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

オルガンやストリングスの音色では...
 ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

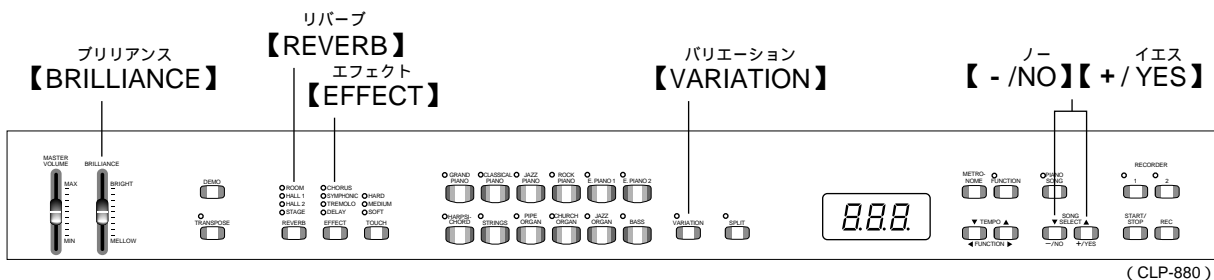
左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

左のペダルの機能切り替え...
ファンクション(P40)で左のペダルをパネルの【START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。

■音に変化を付ける...

【^{バリエーション}VARIATION】/【^{ブリリアンス}BRILLIANCE】CLP-880/860/840) /
【^{リバーブ}REVERB】/【^{エフェクト}EFFECT】CLP-880/860/840)



(CLP-880)

【^{バリエーション}VARIATION】

違った表情の音にします。

操作

【^{バリエーション}VARIATION】を押すごとにON/OFFが切り替わります。

☞ ランプが点灯したときがONです。

基本設定...OFF

【^{ブリリアンス}BRILLIANCE】CLP-880/860/840)

音質を調節します。BRIGHTにするほど明るく鋭い音になり、MELLOWにするほど柔らかくまろやかな音になります。

【^{ブライ}BRIGHT】にすると、音量が少し大きくなりますので、【^{マスター}MASTER VOLUME】が上がっていると、音が歪むことがあります。この場合、【^{マスター}MASTER VOLUME】を少し下げてください。

【^{リバーブ}REVERB】

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

OFF : リバーブはかかりません。

ROOM : 部屋の中にいるような響きになります。

HALL 1 : 小さいコンサートホールにいるような響きになります。

HALL 2 : 大きいコンサートホールにいるような響きになります。

STAGE : ステージにいるような響きになります。

基本設定...

音色ごとにリバーブの種類(OFFも含む)が設定されています。

操作

【^{リバーブ}REVERB】を押すごとに種類が切り替わります。

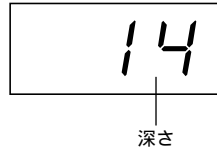
☞ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

リバーブの種類は【^{リバーブ}REVERB】を押して離れたときに切り替わります。【^{リバーブ}REVERB】を押したまま深さを変更したときは、【^{リバーブ}REVERB】を離しても種類は切り替わりません。

深さ かり具合 を変える

【REVERB】を押している間はディスプレイにリバーブの深さの値が表示されます。

【REVERB】を押したまま【-/NO】または【+/YES】を押すと、深さの値(0~20)が変わります。



深さ0 : 効果なし ~
深さ20 : 深さ最大

基本設定...

音色ごとに標準の深さが設定されています。

【EFFECT】(CLP-880/860/840)

音に効果を付け加えます。

その深さ かり具合 を変えることもできます。

- OFF : エフェクトはかかりません。
- CHORUS : 広がり感を付けます。
- SYMPHONIC : 奥行き感を付けます。
- TREMOLO : 音量を揺らします。
- DELAY : 反響音を付けます。

操作

【EFFECT】を押すごとに種類が切り替わります。

☞ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

基本設定...

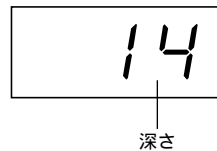
音色ごとにエフェクトの種類 OFF も含む が設定されています。

エフェクトの種類は【EFFECT】を押して離れたときに切り替わります。【EFFECT】を押したまま深さを変更したときは、【EFFECT】を離しても種類は切り替わりません。

深さ かり具合 を変える

【EFFECT】を押している間はディスプレイにエフェクトの深さの値が表示されます。

【EFFECT】を押したまま【-/NO】または【+/YES】を押すと、深さの値(0~20)が変わります。



深さ0 : 効果なし ~
深さ20 : 深さ最大

基本設定...

音色ごとに標準の深さが設定されています。

【TOUCH】

弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

HARD : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

MEDIUM : 標準的なタッチです。

SOFT : 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそろいやすいタッチです。

FIXED : タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

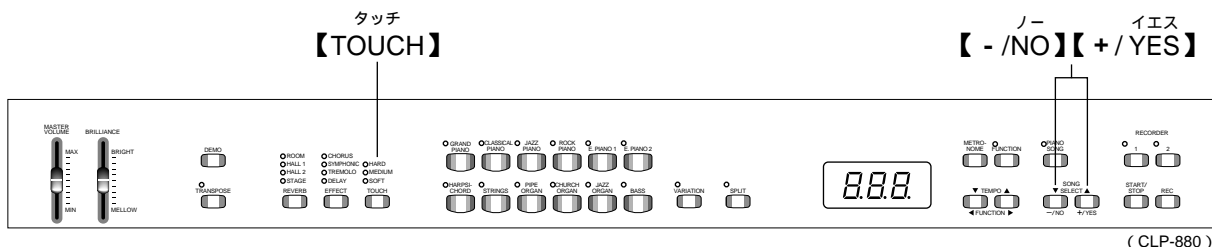
鍵盤の重さ自体は変わりません。

HARD = 「力のいる、骨の折れる」
MEDIUM = 「中間の、中位の」
SOFT = 「やさしい、楽な」
FIXED = 「固定された」

基本設定...

MEDIUM

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。



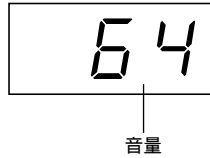
(CLP-880)

操作

【TOUCH】^{タッチ}を押すごとに種類が切り替わります。^{フィックス}
 □> 選ばれている種類のランプが点灯します。FIXEDのときは、どのランプも点灯しません。

フィックス FIXEDの場合の音量を変える

【TOUCH】^{タッチ}を押している間はディスプレイに音量を示す値が表示されます。^{フィックス}
 【TOUCH】^{タッチ}を押したまま【- / NO】^{ノー}または【+ / YES】^{イエス}を押すと、音量を示す値(1 ~ 127、基本設定 = 64)が変わります。



1: 最小音量 ~
 127: 最大音量

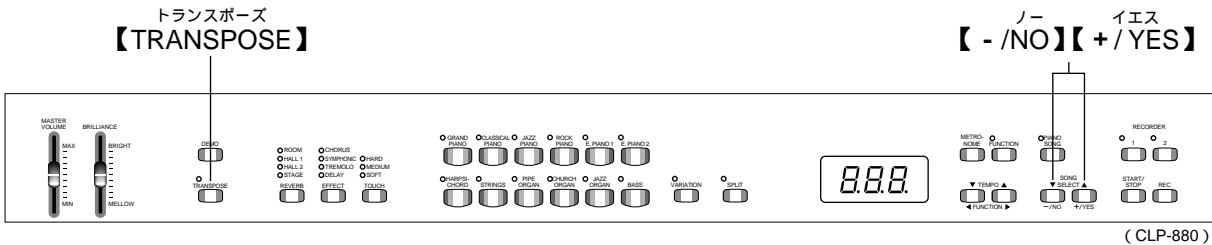
フィックス
FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定となります。

タッチの種類は【TOUCH】^{タッチ}を押して離れたときに切り替わります。^{フィックス}
 【TOUCH】^{タッチ}を押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、【TOUCH】^{タッチ}を離しても種類は切り替わりません(フィックスのままとなります)。

トランスポーズ 【TRANSCOPE】

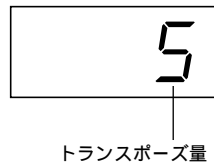
弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりします。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。

トランスポーズ
TRANSCOPE: 移調する
 移調: 曲全体の音程を上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。



操作

【TRANSCOPE】^{トランスポーズ}を押している間はディスプレイにトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。^{トランスポーズ}
 【TRANSCOPE】^{トランスポーズ}を押したまま【- / NO】^{ノー}または【+ / YES】^{イエス}を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値(-12 ~ 0 ~ 12、基本設定=0)が変わります。



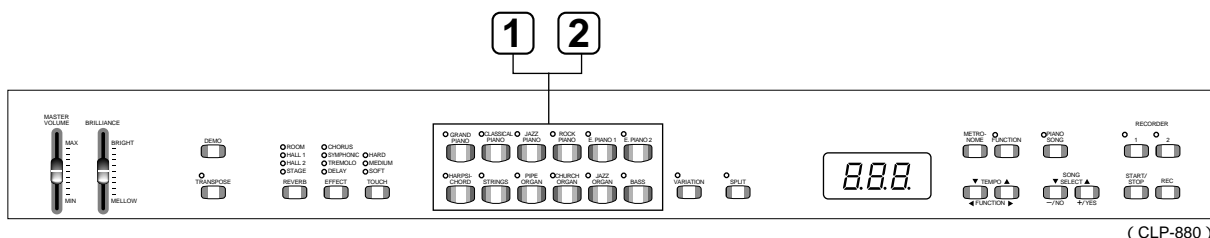
トランスポーズ量...
 -12: -12半音(-1オクターブ)
 0: 標準音程
 12: 12半音(+1オクターブ)

トランスポーズをかけた場合の発音域について...
 トランスポーズによって、元の88鍵の最高音(C7)より高くなる音は1オクターブ下の音で、元の88鍵の最低音(A-1)より低くなる音は1オクターブ上の音で発音します。

【TRANSCOPE】^{トランスポーズ}のランプは、【TRANSCOPE】^{トランスポーズ}を押している間点灯しますが、トランスポーズ量を0以外に設定したときは、操作後も引き続き、点灯し続けます。^{ゼロ}
 0以外に設定したあとは、【TRANSCOPE】^{トランスポーズ}を押すごとに、トランスポーズのON/OFFを切り替えることができます。^{オン/オフ}

「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)

2種類の音色を混ぜて使います。2つの音色でメロディをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりできます。



(CLP-880)

操作

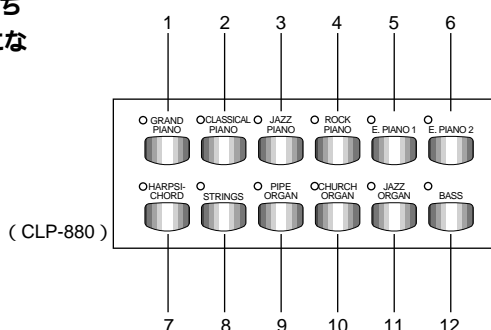
1 デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(=1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

⇒ 2つの音色ボタンのランプが点灯します。

右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります(もう一方は第2音色)。

優先順位



(CLP-880)

デュアルでのいろいろな設定が「ファンクションF3 (P38)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

【STRINGS】の【VARIATION】は音の立ち上がりの遅いストリングス音色です。これをデュアルで片方の音色に使うと、独特の効果が出ます。

2 デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜けます。

デュアルとスプリット...

デュアルとスプリット (CLP-880/860) の P27 を同時に使うことはできません。

デュアルのときの【VARIATION】...

両方または片方の音色の【VARIATION】がONになっているときにランプが点灯します。両音色ともOFFの場合には消灯します。その後【VARIATION】を押すごとに両音色ともON、両音色ともOFFを切り替えることができます。(片方だけONにしたい場合は、デュアルモードに入る前に音色ごとに【VARIATION】のON/OFFを設定しておく必要があります。)

デュアルのときの【REVERB】...

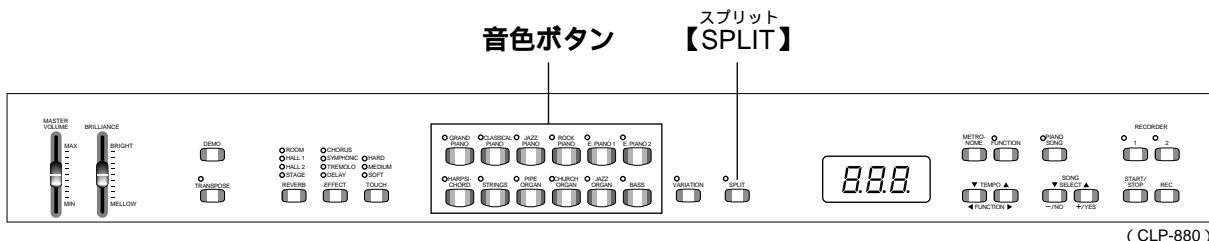
第1音色のリバープの種類が、優先されます。(OFFの場合は第2音色のものになります。) 深さの調節 (【REVERB】を押したまま【-/NO】【+/YES】を押す) は、第1音色にだけ影響します。

デュアルのときの【EFFECT】...

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF3 (P38)」で音色ごとに任意に設定することもできます。パネルでの深さの調節 (【EFFECT】を押したまま【-/NO】【+/YES】を押す) は、第1音色にだけ影響します。

「スプリット」で弾く(鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く) (CLP-880/860)

88個の鍵盤を左右の領域に分け、別々の音色で演奏します。



操作

1 スプリットモードに入る

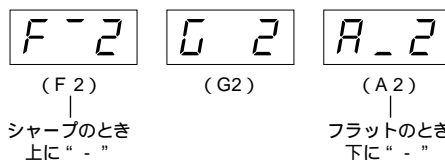
- スプリット
【SPLIT】を押します。
- ⇒ ランプが点灯します。
- ⇒ この時点で、左側音色に基本設定の音色【^{ベース}BASS】が選ばれます。

スプリットでのいろいろな設定が「ファンクションF4 (P39)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2 スプリットポイント(2 音色の境め)を決める

- スプリット
【SPLIT】を押している間はディスプレイにスプリットポイントの鍵盤名が表示されます。
- スプリット
【SPLIT】を押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。

スプリットポイントの鍵盤名の表示の例



スプリットポイントの基本設定は「F#2」です。変える必要がない場合はこの操作は必要ありません。

3 右側の音色を決める

演奏したい音色ボタンを押します。

4 左側の音色を決める

- スプリット
スプリット
【SPLIT】を押したまま、演奏したい音色ボタンを押します。(【SPLIT】を押している間は左側の音色ボタンのランプが点灯します。)

5 スプリットモードを抜ける

- スプリット
【SPLIT】を押します。
- ⇒ ランプが消灯します。

スプリットとデュアル...

スプリットとデュアル(P26)を同時に使うことはできません。

スプリットポイントの鍵盤は左側に含まれます。

スプリットポイントが「ファンクションF4 (P39)」でも設定できます。

スプリットのときの

【VARIATION】...

音色ごとに【^{バリエーション}VARIATION】のON/OFFが設定できます。

通常の状態では、パネルの音色ボタンは右側の音色の状態を示します。(右側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、【^{バリエーション}VARIATION】がONのとき、そのランプが点灯します。)

【^{スプリット}SPLIT】を押している間は、パネルの音色ボタンは左側の音色の状態を示します。(左側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、【^{バリエーション}VARIATION】がONのとき、そのランプが点灯します。)

スプリットのときの【REVERB】...

右側の音色のリバーブの種類が、優先されます。(OFFの場合は左側の音色のものになります。)深さの調節【^{リバーブ}REVERB】を押したまま【^{マイナス}- / ^{プラス}NO】+ / ^{イエス}YES】を押す)は、右側の音色にだけ影響します。

スプリットのときの【EFFECT】...

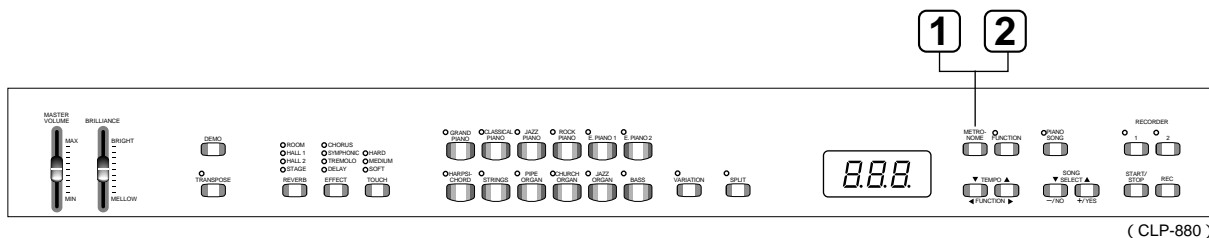
状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。

深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF4 (P39)」で音色ごとに任意に設定することもできます。

パネルでの深さの調節(【^{エフェクト}EFFECT】を押したまま【^{マイナス}- / ^{プラス}NO】+ / ^{イエス}YES】を押す)は、右側の音色にだけ影響します。

【METRONOME】を使う

クラビノーバは、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。お使いください。

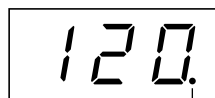


(CLP-880)

操作

1 メトロノームを鳴らす

メトロノーム
【METRONOME】を押します。
⇒ メトロノームが鳴り出します。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

テンポの調節

テンポ
【】TEMPO【】を押すとテンポの値(32~280(1分間の拍数、基本設定=120))が変わります。

拍子の設定

メトロノーム
【METRONOME】を押している間はディスプレイに拍子が表示されます。
メトロノーム
【METRONOME】を押したまま【-/NO】または【+/YES】を押すと、拍子(0、2、3、4、6、基本設定=0(無拍子))が変わります。



拍子

2 メトロノームを止める

メトロノーム
【METRONOME】を押します。
⇒ メトロノームが止まります。

メトロノームの音量は...
ファンクション(P40)で設定できます。

演奏の録音(記録)

クラビノーバの録音機能を使ってご自分の演奏を録音する方法を説明します。

クラビノーバの録音では、

- ・ 2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。
- ・ 録音後、音色やテンポ、効果などを変更できます。
- ・ 録音後、再生させながら演奏することができます。

「録音」と「記録」...

カセットテープに録音するのとクラビノーバのメモリーに録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

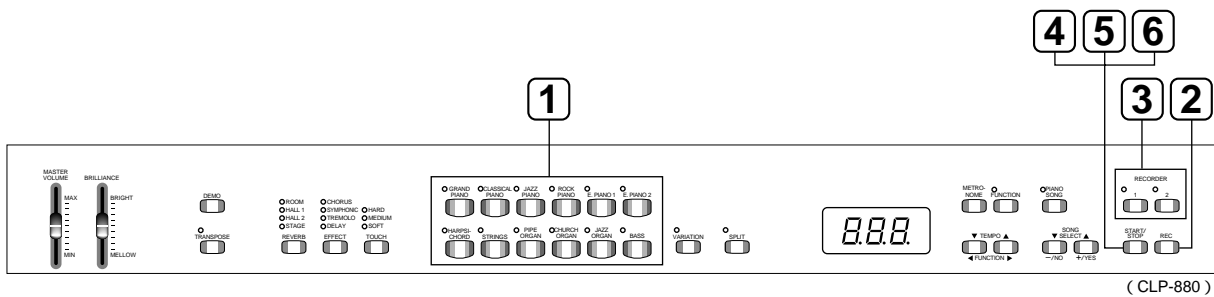
カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、クラビノーバのメモリーでは音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで...」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

クラビノーバのメモリーでは、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

メモリーとは...

録音データやいろいろな設定が記録されるクラビノーバ本体内部の記録装置のことです。

録音の手順(1つのトラックへの録音)



操作

ノート 録音済みのトラックに再録音すると...

再録音するトラックの録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。

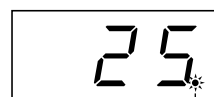
1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(テンポ、リバーブなど)も選んでください。

2 録音モードに入る

レコード【REC】を押します。

⇒トラックボタン【1】または【2】のランプが赤く点灯します。ディスプレイにクラビノーバの記憶残容量の数値(KBの数値)が表示されます。また、右端の点「*」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

録音を中止する場合は、もう一度レコード【REC】を押します。

デモ曲/ピアノ曲モードのときは...
録音モードに入ることはできません。

記憶残容量とは...

クラビノーバに録音できるスペースがあとどれだけ残っているかを示す値です。データの量を表す単位KB(キロバイト)で示されます。何も録音されていない場合で、CLP-880/860では50KB(およそ10,000音符分) CLP-840/820では25KB(およそ5,000音符分)となります。

メトロノームを使う...

メトロノーム【METRONOME】を使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

3 録音トラックを選ぶ

2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。

【1】または【2】で録音するトラックを選びます。

⇒ ランプが赤く点灯します。

4 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、【START/STOP】^{スタート/ストップ}を押すと録音がスタートします。

⇒ ディスプレイに録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



左のペダルを使ってスタートする...

ファンクション(P40)で左のペダルをパネルの【START/STOP】^{スタート/ストップ}と同じ機能に切り替えることができます。そうすると、左のペダルで録音をスタートすることができます。

5 録音をストップする

【START/STOP】^{スタート/ストップ}または【REC】^{レコード}を押します。

⇒ 録音したトラックのランプが緑に点灯します。(録音モードは自動的に解除されます。)

録音中にメモリーの記憶残容量が少なくなってきた場合...

録音中のトラックのランプが赤く点滅しだします。そして記憶残容量がなくなると画面に「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは録音され、残ります。)

6 録音した演奏を聞いてみる

【START/STOP】^{スタート/ストップ}を押すと、今録音した演奏が再生されます。もう一度【START/STOP】^{スタート/ストップ}を押すと、再生が止まります。

トラックのデータの削除...

【START/STOP】^{スタート/ストップ}で録音をスタートし、何もせず【START/STOP】^{スタート/ストップ}で録音をストップすると、そのトラックのデータがすべて削除されます。

録音し直す場合

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1 必要に応じて、録音する音色(とそのほかの設定)を選び直す
先に録音したときと設定を変えたい場合に行ってください。

2 再び録音モードに入る
再び【REC】^{レコード}を押します。
⇒ 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

このあと、上記「4」以降の手順に従って録音します。

■ 続いて2つめのトラックへ録音する場合

続いて2つめのトラックに録音する場合の手順を説明します。

- 1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ
音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。
- 2 再び録音モードに入る
再び^{レコード}REC を押します。
☞ 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。
- 3 録音トラックを選ぶ
今録音したトラックと違う方のトラックを選びます。
☞ ランプが赤く点灯します。(今録音したトラックのランプは緑に点灯します。)
今録音したトラックのデータを再生させながら録音することができます。

このあと、前記「4」以降の手順(P30)に従って録音します。

今録音したトラックのデータの再生をOFFにして録音するには

…
再び録音モードに入る前(手順2の前)に、今録音したトラックのボタンを押します。

緑のランプが消灯します。
今録音したトラックとは別の曲を録音したい場合などに便利です。

■ 録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。以下にそれを示します。
下記のように「トラックごとに録音されるデータ」と「2つのトラックで共通に録音されるデータ」があります。

トラックごとに録音されるデータ

- ・ ノートデータ(弾いた音) 1
- ・ 音色
- ・ ダンパーペダルのON/OFF ^{オン/オフ}
- ・ ソステヌートペダルのON/OFF ^{オン/オフ} 1
- ・ ソフトペダルのON/OFF ^{オン/オフ}
- ・ 【^{バリエーション} VARIATION】のON/OFF ^{オン/オフ}
- ・ 【^{リバーブ} REVERB】の深さ
- ・ 【^{エフェクト} EFFECT】の深さ(CLP-880/860/840)
- ・ デュアルの音色
- ・ デュアル音量バランス 2
- ・ デュアルデチューン 2
- ・ デュアルオクターブシフト 2
- ・ スプリットの音色(CLP-880/860)
- ・ スプリット音量バランス(CLP-880/860) 2
- ・ スプリットオクターブシフト(CLP-880/860) 2

2つのトラックで共通に録音されるデータ

- ・ テンポ
- ・ 拍子
- ・ 【^{リバーブ} REVERB】の種類(OFFも含む)
- ・ 【^{エフェクト} EFFECT】の種類(OFFも含む)(CLP-880/860/840)

- 1 初期値としては記録されません。
- 2 録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。

初期値とは…
曲の先頭に記録されるデータです。

■ 初期値の変更

録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。変更できるデータは前記「録音(記録)されるデータの種類」のリストをご参照ください。

- 1 録音モードに入り、初期値を変更するトラックを選びます。
↳ ランプが赤く点灯します。2つのトラックで共通に録音されるデータはどちらのトラックを選んでも変更されます。)
- 2 パネルを操作して初期値を変更します。
ここで鍵盤や【START/STOP】^{スタート/ストップ}を押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。
- 3 【REC】^{レコード}を押して録音モードを抜けます。
ここで【START/STOP】^{スタート/ストップ}を押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

たとえば録音した^{エレクトリックピアノ1}【E. PIANO 1】の音色を^{エレクトリックピアノ2}【E. PIANO 2】に変更する場合...
操作1のあと、操作2で【E. PIANO 2】^{エレクトリックピアノ2}を押し、操作3の【REC】^{レコード}を押して完了です。

初期値変更の中止...
操作2のあと、初期値を変更するトラックを変えて、何もしないで操作3で録音モードを抜けると初期値変更は中止されます(2つのトラックで共通に録音されるデータの変更も中止されます。)

■ 録音上の注意

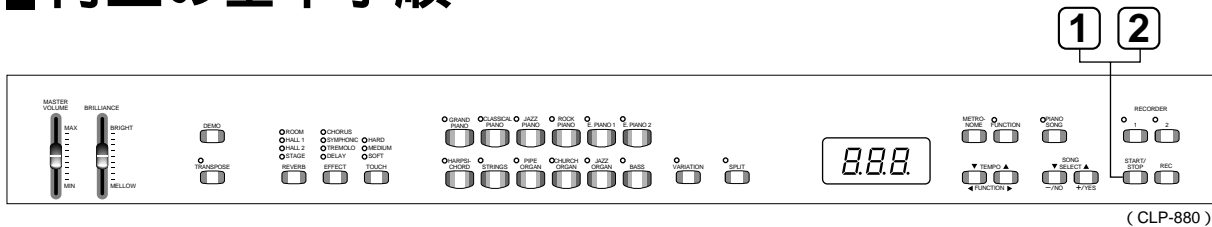
- ・ 録音した曲は、電源^{オフ}OFF後約1週間記憶され続けます。(ただし、次回電源を入れたときは、録音した曲があってもトラックボタンのランプは自動的に緑に点灯しませんので、再生させる場合はトラックボタンを押して緑に点灯させてください。)1週間以上続けて記憶させる場合は、少なくとも1週間以内に電源を^{オン}ONにしてください。また、クラビノーバにMIDIデータファイラーMDF3などを接続して演奏データを送信し、曲をディスクに保存しておくこともできます。(「録音データのバルク送信」(P42))
- ・ 録音する際、レコードモードに入る前にあらかじめトラックボタンを押してみて緑に点灯するかどうか確認すると安心です。緑に点灯する場合は、そのトラックに録音済みのデータがあり、再録音すると、そのトラックの録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。

録音した曲の再生

録音機能 (P29~32) を使って録音した曲を再生します。

曲の再生データは、MIDI送信されません。

再生の基本手順



操作

1 再生スタート

スタート/ストップ
【START/STOP】を押すと再生がスタートします。

⇒ ディスプレイにはスタート後、再生中の小節番号が表示されます。



- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、再生音色と手弾き音色は連動しません。再生音色は録音された音色に、手弾き音色は選ばれているパネル音色になります。

音量の調節

マスター ボリューム
【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

テンポの調節

再生スタート前または再生中に、【TEMPO】を押してテンポを変更できます。
【REVERB】を同時に押すと録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

2 再生ストップ

曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、【START/STOP】を押します。

デモ曲/ピアノ曲モードのときは...再生できません。

録音データがないときは【START/STOP】を押しても再生はスタートしません。

「連弾や2台のピアノのための曲の片パートを録音し、それを再生しながら自分でもう1つのパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

再生といっしょにメトロノームを使うこともできます。この場合、再生ストップすると、メトロノームも同時に止まります。

再生中の【REVERB】と【EFFECT】...状況に応じて1つの【REVERB】の種類、1つの【EFFECT】の種類が優先されます。

再生に関する便利な機能

トラックの再生ON/OFF

録音後は、録音したデータが入っているトラックボタン(【1】【2】の片方または両方)のランプが緑に点灯します。

ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のON/OFFが切り替わります。

トラックの再生ON/OFFの切り替えは...

再生前でも再生中でもできます。両トラックとも再生OFFにした場合は、再生スタートできません。(または、再生がストップします。)

再生をOFFにしたパートの音量は...

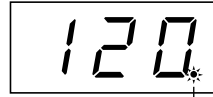
録音した曲の再生の場合は、再生をOFFにしたトラックの音量は0に固定です。

弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

再生ONのトラックのボタン(【1】または【2】)を押したまま【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

□> ディスプレイの右端の点「。」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。
再生しながら自分も弾くときに便利です。

左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。

ファンクション(P40)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルの【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。

自分が先に弾き出して、途中から再生パートをスタートさせたいときに便利です。

再生OFFのトラックのボタンを
押したまま【START/STOP】
を押すと...

そのトラックの再生がONになると
共に、シンクロスタート待機状態に
なります。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

ファンクション

クラビノーバをお使いいただく上での各種の設定を、基本設定(工場出荷時の設定)以外のご自分の使いやすい設定に変更する機能です。

そのほかにも、各種の便利な機能や応用的な機能が、ファンクションの中にまとめられています。

まず、ファンクション一覧表を見てください。

ファンクションには大項目がCLP-880/860で9個(F1~F9)、CLP-840/820で8個あります(F1~F8)。

大項目の中には小項目をいくつか持つものもあります。

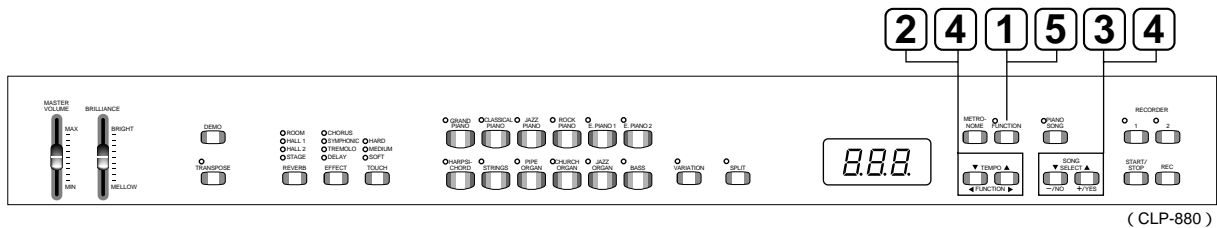
ファンクション一覧表

大項目	小項目	CLP-880	CLP-860	CLP-840	CLP-820	ページ
音程の微調整	-	F1	F1	F1	F1	37
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	F2.1	F2.1	F2.1	F2.1	37
	基音の設定	F2.2	F2.2	F2.2	F2.2	38
デュアルの諸設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	F3.1	F3.1	F3.1	38
	2音色の音程を微妙にずらす設定	F3.2	F3.2	F3.2	F3.2	38
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	F3.3	F3.3	F3.3	38
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	F3.4	F3.4	F3.4	38
	第1音色のエフェクトの深さの設定	F3.5	F3.5	F3.5	-	38
	第2音色のエフェクトの深さの設定	F3.6	F3.6	F3.6	-	38
	基本設定に戻す操作	F3.7	F3.7	F3.7	F3.5	39
スプリットの諸設定	スプリットポイントの設定	F4.1	F4.1	-	-	39
	2音色の音量バランスの設定	F4.2	F4.2	-	-	39
	右側音色のオクターブシフトの設定	F4.3	F4.3	-	-	39
	左側音色のオクターブシフトの設定	F4.4	F4.4	-	-	39
	右側音色のエフェクトの深さの設定	F4.5	F4.5	-	-	39
	左側音色のエフェクトの深さの設定	F4.6	F4.6	-	-	39
	ダンパーペダルの有効域の設定	F4.7	F4.7	-	-	39
	基本操作に戻す設定	F4.8	F4.8	-	-	39
ペダルの諸設定	左ペダル機能の設定	F5.1	F5.1	F4	F4	40
	ダンパーモードの設定	F5.2	F5.2	-	-	40
	共鳴効果の深さの設定	F5.3	F5.3	-	-	40
メトロノーム音量の設定	-	F6	F6	F5	F5	40
ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	-	F7	F7	F6	F6	40
MIDI機能の諸設定	MIDI送信チャンネルの設定	F8.1	F8.1	F7.1	F7.1	41
	MIDI受信チャンネルの設定	F8.2	F8.2	F7.2	F7.2	41
	ローカルコントロールON/OFFの設定	F8.3	F8.3	F7.3	F7.3	41
	プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定	F8.4	F8.4	F7.4	F7.4	41
	コントロールチェンジ送受信ON/OFFの設定	F8.5	F8.5	F7.5	F7.5	42
	MIDI送信データにトランスポーズをかける設定	F8.6	F8.6	F7.6	F7.6	42
	セットアップデータのMIDI送信	F8.7	F8.7	F7.7	F7.7	42
	録音データのバルク送信	F8.8	F8.8	F7.8	F7.8	42
バックアップON/OFFの設定	音色関連項目のバックアップ設定	F9.1	F9.1	F8.1	F8.1	43
	MIDI関連項目のバックアップ設定	F9.2	F9.2	F8.2	F8.2	43
	音程、音律関連項目のバックアップ設定	F9.3	F9.3	F8.3	F8.3	43
	ペダル関連項目のバックアップ設定	F9.4	F9.4	F8.4	F8.4	43

ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。

(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



(CLP-880)

操作

1 ファンクションモードに入る

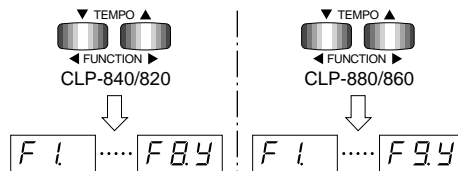
【FUNCTION】を押します。

⇒ ランプが点灯し、ファンクションモードのディスプレイ **F**** になります。

2 大項目を選ぶ

【◀】FUNCTION【▶】ボタン下の印刷でファンクションの大項目(F1~F9)を選びます。

CLP-840/820:F1~F8、CLP-880/860:F1~F9



3 【-/NO】【+/YES】ボタン下の印刷で...

小項目がない場合：直接設定の操作に入ります。

小項目がある場合：【+/YES】で小項目を選択する操作に進みます。

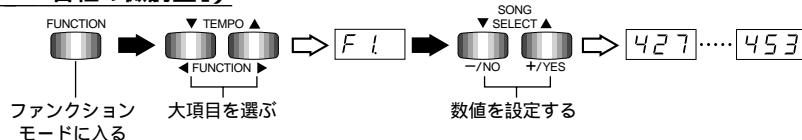
4 これ以降の2種類のボタンを使って操作します。

【◀】FUNCTION【▶】大項目または小項目の選択に使用します。

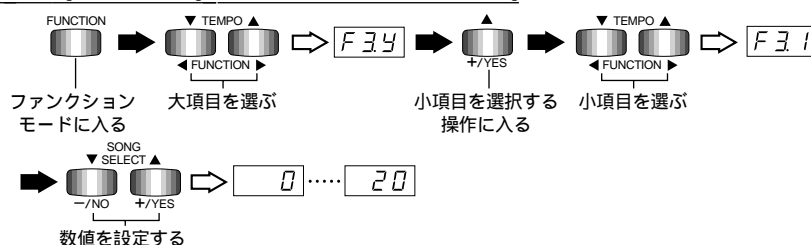
【-/NO】【+/YES】大項目または小項目を選んだあと、ON/OFFの設定、種類の設定、数値の設定をします。
【-/NO】【+/YES】を同時に押すと基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。

ノート 項目を選んだあと、最初に【-/NO】【+/YES】を押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。

操作例1(F1「音程の微調整」)



操作例2(F3.1「デュアルの音色の音量バランスの設定」)



5 操作が完了したら...

【FUNCTION】を押してファンクションモードから抜けます。

⇒ ランプが消灯し、ディスプレイがテンゴ表示に戻ります。

デモ曲/ピアノ曲モードのときと、曲の再生中、録音中は... ファンクションモードに入ることができません。

各ファンクション項目の説明

F1. 音程の微調整

楽器全体の音程を微調整する機能です。合奏のときなど、ほかの楽器と音程を正確に合わせたいときなどに使用します。

① ファンクションモードに入り、大項目 **F1** を選びます。

② 【- /NO】^{ノー}【+ /YES】^{イエス}で、A3の鍵盤の音程を^{ヘルツ}Hzの数値で設定します(約0.2Hz単位)。

⇒ **427** ... **440** ... **453**

小数点以下の数値は、下記のような点「.」で示されます。

表示	値
440	440.0
4.40	440.2
44.0	440.4
440.	440.6
4.40.	440.8

設定範囲: 427.0 ~ 453.0 (Hz)

基本設定: 440.0 (Hz)

・ ^{ヘルツ}Hzとは...

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位が^{ヘルツ}Hzです。)

ノート 鍵盤を使った設定方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

音程を上げる(約0.2Hz単位)...

A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

音程を下げる(約0.2Hz単位)...

A-1とA#1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

基本設定に戻す...

A-1とA#1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

・ 鍵盤と鍵盤名の対応については、P12「各部の名前」をご参照ください。

ノート 約1Hz単位で設定する方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

約1Hz単位で音程を上下させる...

「A-1とB-1」または「A-1とA#1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、^{ノー}【- /NO】^{イエス}【+ /YES】を押す。

基本設定に戻す...

「A-1とB-1」または「A-1とA#1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、^{ノー}【- /NO】^{イエス}【+ /YES】を同時に押す。

(上記操作中、ディスプレイが^{ヘルツ}Hz表示(**427** ... **453**)に切り替わります。操作後元のディスプレイに戻ります。)

F2. 音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共に様々な音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。

当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

平均律(Equal Temperament)^{イコールテンペラメント}

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調)(Pure Temperament)^{ピュアテンペラメント} (Major)^{メジャー}

純正律(短調)(Pure Temperament)^{ピュアテンペラメント} (minor)^{マイナー}

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律(Pythagorean Temperament)^{ピタゴリアンテンペラメント}

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律(Meantone Temperament)^{ミントーンテンペラメント}

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律(Werckmeister)^{ヴェルクマイスター}

キルンベルガー音律(Kirnberger)^{キルンベルガー}

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

① ファンクションモードに入り、大項目 **F24** を選びます。

② **【 + /YES ^{イエス} を押して確定し、【 ◀ FUNCTION ▶ ^{ファンクション} 】で以下の小項目を選び、【 - /NO ^{ノー} 】【 + /YES ^{イエス} 】で設定します。**

小項目

F21 音律(調律法)の種類の設定

- 設定範囲: 1..... 平均律
2..... 純正律(長調)
3..... 純正律(短調)
4..... ピタゴラス音律
5..... 中全音律
6..... ヴェルクマイスター音律
7..... キルンベルガー音律

基本設定: 1..... 平均律

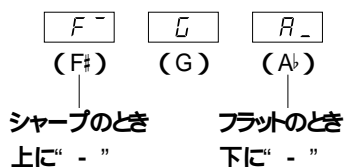
F22 基音の設定

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲: C, C#, D, Eb, E, F, F#, G, Ab, A, Bb, B

基本設定: C

・ 基音表示の例



F3. デュアルの諸設定

デュアルモードでの各種設定をします。
音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

① デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F34** を選びます。

② **【 + /YES ^{イエス} を押して確定し、【 ◀ FUNCTION ▶ ^{ファンクション} 】で以下の小項目を選び、【 - /NO ^{ノー} 】【 + /YES ^{イエス} 】で設定します。**

ノート デュアルモードでないときには...

①での表示が **F3-** になり、**【 + /YES ^{イエス} を押しても反応しません。**
ファンクションモードに入ったあとで、デュアルモードに入ることもできます。

小項目

F31 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20(20に近付くほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

F32 2音色の音程を微妙にずらす設定

設定範囲: -10~0~10(+方向で第1音色の音程が高くなる、-方向で第2音色の音程が高くなる。)

基本設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音程を微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F33 第1音色のオクターブシフトの設定

F34 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1、0、1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

F35 第1音色のエフェクトの深さの設定 (CLP-880/860/840)

F36 第2音色のエフェクトの深さの設定 (CLP-880/860/840)

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色別々に設定します。

エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

・ 「第1音色」「第2音色」については、P26をご覧ください。

F35 基本設定に戻す操作 (CLP-820)

F37 基本設定に戻す操作 (CLP-880/860/840)

【+/YES】を押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの【F3*】に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作（【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯）が必要です。

F4. (CLP-880/860) スプリットの諸設定

スプリットモードでの各種設定をします。
音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

1 スプリットモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F44** を選びます。

2 【+/YES】を押して確定し、【◀FUNCTION▶】で以下の小項目を選び、【-/NO】【+/YES】で設定します。

ノート スプリットモードでないときには...

1での表示が **F4-** になり、【+/YES】を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ってからではスプリットモードに入ることができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからスプリットモードに入ってください。

小項目

F41 スプリットポイントの設定

設定範囲: 全鍵盤

基本設定: F#2

左鍵域と右鍵域の境め(スプリットポイント)にする鍵盤を指定します。スプリットポイントの鍵盤自体は左鍵域に含まれません。

・【-/NO】【+/YES】の代わりに、スプリットポイントにした
い鍵盤を押しても設定できます。

・ファンクションモードでないとき、【SPLIT】を押しながら鍵盤を押しても設定できます。(P27)

・スプリットポイントの鍵盤名表示の例

F-2 **G2** **A-2**
(F#2) (G2) (A#2)

シャープのとき
上に“-”

フラットのとき
下に“-”

F42 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20(20に近付くほど右側音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

組み合わせる音色により2音色の音量バランスを好みの状態に設定します。

F43 右側音色のオクターブシフトの設定

F44 左側音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1、0、1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。右側音色と左側音色別々に設定できます。弾く曲の音域などに応じて選んでください。

F45 右側音色のエフェクトの深さの設定

F46 左側音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを右側音色と左側音色別々に設定します。

エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

F47 ダンパーペダルの有効域の設定

設定範囲: ALL(両音色) 1(右側の音色) 2(左側の音色)

基本設定: ALL

ダンパーペダル効果を両音色にかけるか(ALL) 右側音色にだけかけるか(1) 左側音色にだけかけるか(2)を設定します。

F48 基本設定に戻す操作

【+/YES】を押すと上記すべての設定がその音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

【SPLIT】を押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの【F4*】に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作（【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯）が必要です。

F4. (CLP-840/820) 左ペダル機能の設定

F5. (CLP-880/860) ペダルの諸設定

CLP-840/820

左のペダルの機能を設定します。基本設定ではソフトペダルとして機能しますが、ここで、スタート/ストップ機能(パネルの【START/STOP】^{スタート/ストップ}と同じ機能)に切り替えることができます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F4** を選びます。

2 【- /NO】^{ノー}【+ /YES】^{イエス}で設定します。

選択範囲: 1(ソフトペダル) 2(スタート/ストップ)
基本設定: 1(ソフトペダル)

CLP-880/860

左ペダルの機能を【START/STOP】^{スタート/ストップ}に切り替えたり、ダンパーペダルに関する設定ができます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F54** を選びます。

2 【+ /YES】^{イエス}を押して確定し、【◀】^{ファンクション}FUNCTION【▶】^{イエス}で以下の小項目を選び、【- /NO】^{ノー}【+ /YES】^{イエス}で設定します。

小項目

F5.1 左ペダル機能の設定

設定範囲: 1(ソフトペダル) 2(スタート/ストップ)

基本設定: 1(ソフトペダル)

2(スタート/ストップ)にすると、パネルの【START/STOP】^{スタート/ストップ}と同じ機能になります。

F5.2 ダンパーモードの設定

設定範囲: 1(オン/オフ式) 2(連続可変式)

基本設定: 2(連続可変式)

右のペダル(ダンパーペダル)を踏み込むほど余韻が長くなる連続可変式(8段階)で使うか、オン/オフスイッチ式で使うかを設定します。

F5.3 共鳴効果の深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 12

ピアノ音色でダンパーペダルを踏んだときに加わる響板や弦の共鳴効果の深さを設定します。

F5. (CLP-840/820) メトロノーム音量の設定

F6. (CLP-880/860) メトロノーム音量の設定

メトロノームの音量を設定します。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F5** (CLP-840/820) **F6** (CLP-880/860) を選びます。

2 【- /NO】^{ノー}【+ /YES】^{イエス}で設定します。

設定範囲: 1~20

基本設定: 10

ノート ショートカット操作...

【METRONOME】^{メトロノーム}を押したまま【FUNCTION】^{ファンクション}を押すと直接ファンクションモードの**F5** (CLP-840/820) **F6** (CLP-880/860)に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作(【FUNCTION】^{ファンクション}を押す ⇨ ランプ消灯)が必要です。

F6. (CLP-840/820) ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定

F7. (CLP-880/860) ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定

クラピノーパに入っているピアノ50曲の再生時、再生をOFFにしたパートの音量を設定します。ガイドとして大きく鳴らしたい場合や小さく鳴らしたい場合、あるいはまったく音を鳴らしたくない場合とに応じて、音量を調節してください。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F6** (CLP-840/820) **F7** (CLP-880/860) を選びます。

2 【- /NO】^{ノー}【+ /YES】^{イエス}で設定します。

選択範囲: 0~20

基本設定: 5

F7.(CLP-840/820)MIDI機能の諸設定

F8.(CLP-880/860)MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。
MIDIについての基礎的な解説が「MIDIについて」
(P51)にあります。ご参照ください。

ノート

MIDI端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチをMIDIに設定してください。
TO HOST端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチを、接続するコンピューターの種類に応じて、正しく設定してください。
(P46～47)
ここでのMIDIに関する設定は、TO HOST端子での信号の入出力に対しても有効です。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F7Y**(CLP-840/820) / **F8Y**(CLP-880/860) を選びます。

2 【+/YES】を押して確定し、【◀FUNCTION▶】で以下の小項目を選び、【-/NO】【+/YES】で設定します。

小項目

F7I(CLP-840/820) / **F8I**(CLP-880/860) MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1～16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでクラビノーバからMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1～16、OFF(送信しない)
基本設定: 1

・デュアルのときの第2音色、スプリットのときの左側音色は...

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルに固定です。(第1音色、右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。ただし、上記設定チャンネルをOFFに設定した場合は送信されません。)

・デモ曲/ピアノ50曲の再生データ、録音した曲の再生データはMIDI送信されません。

F7R(CLP-840/820) / **F8R**(CLP-880/860) MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1～16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでクラビノーバがMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: ALL、1&2、1～16
基本設定: ALL

・ALLの場合は...

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。

この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、クラビノーバで受信して再生させることができます。

・「1&2」の場合は...

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、クラビノーバ本体で再生することができます。

・クラビノーバでは、クラビノーバ本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

・デモ曲/ピアノ曲モード中は、MIDI受信を行いません。

F7J(CLP-840/820) / **F8J**(CLP-880/860) ローカルコントロール ON/OFFの設定

通常、クラビノーバの鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールON」と呼ばれます。「ローカルコントロールをOFF」にすると、「鍵盤」が音源が切り離され、鍵盤を弾いてもクラビノーバからは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏情報はMIDI送信されますので、クラビノーバでは音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときに、ローカルコントロールをOFFにします。

選択範囲: オン/オフ
基本設定: オン

F74(CLP-840/820) / **F84**(CLP-880/860) プログラムチェンジ 送受信ON/OFFの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。

たとえばクラビノーバからプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(クラビノーバのパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをクラビノーバが受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)があります。音色切り替えを連動させたい場合はOnに、連動させたくない場合は、OFFにします。

・クラビノーバのプログラムチェンジナンバーは...

各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」のP55をご覧ください。

選択範囲: オン/オフ
基本設定: オン

F75 (CLP-840/820) / **F85** (CLP-880/860) コントロールチェンジ

送受信ON/OFFの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえばクラビノーバからコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(クラビノーバでダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをクラビノーバが受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません)

このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はOnに、できないほうが便利な場合は、Offにします。

・クラビノーバがコントロールチェンジとして扱える情報...

「MIDIデータフォーマット」のP55をご覧ください。

選択範囲: オン/オフ
基本設定: オン

F76 (CLP-840/820) / **F86** (CLP-880/860) MIDI送信データにトランスポーズをかける設定

MIDI送信データにトランスポーズをかける設定です。(本体のトランスポーズの設定とは連動しません。)

選択範囲: -12 ~ 0 ~ 12 (半音単位)
基本設定: 0

F77 (CLP-840/820) / **F87** (CLP-880/860) セットアップデータのMIDI送信

クラビノーバのパネル設定状態のセットアップデータをMIDI接続したMIDIデータファイラ-MDF3やシーケンサーなどに送信します。

DOU-10や外部シーケンサーに演奏データを録音する際、演奏データの頭に、録音データを再生しながら自分で演奏するためのセットアップデータを送信して記録しておく、再生しながらの演奏の際、便利です。

・セットアップデータとは...
クラビノーバのパネル設定状態一式のデータです。

操作

送信するパネル設定を作ります。

▶ シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。

▶ ファンクションモードに入って**F77** (CLP-840/820) / **F87** (CLP-880/860) を選びます。

▶ **【+/YES】**を押すと送信が実行されます。

⇨ **End**

・送信される「セットアップデータ」の内容...

「MIDIデータフォーマット」のP56(パネルデータ詳細)に掲載されている内容が送信されます。

・送信したデータの受信方法...

データを送信した機器とクラビノーバをMIDI接続します。

▶ データを送信した機器側で送信操作をします。

⇨ 自動的にクラビノーバがそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。

(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

・セットアップデータMIDI送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F78 (CLP-840/820) / **F88** (CLP-880/860) 録音データのバルク送信

MIDIデータファイラ-MDF3やシーケンサーなどをクラビノーバに接続し、クラビノーバで録音したデータをMIDIのバルクデータとして送信し、ディスクに保存しておくことができます。

保存しておいた録音データを再生する場合は、送信した機器からクラビノーバ本体にバルクデータを送り戻した上で、通常の再生操作で再生します。

・バルクデータとは...

MIDIで、データの種類を表す用語で「データのかたまり」といった意味です。

操作

クラビノーバで演奏を録音します。

▶ MIDIデータファイラ-MDF3などとMIDI接続し、MDF3などの側のバルクデータ受信準備を整えます。

▶ ファンクションモードに入って**F78** (CLP-840/820) / **F88** (CLP-880/860) を選びます。

▶ **【+/YES】**を押すと送信が実行されます。

⇨ **End**

・録音モードのときと再生中は...

バルクデータ送信はできません。

・バルクデータ送信中は...

手弾き音のデータ及びパネル情報はMIDI送信されません。また、MIDI受信を行いません。

・送信したデータの受信(送り戻し)方法...

データを送信した機器とクラビノーバをMIDI接続します。

▶ データを送信した機器側で送信操作をします。

⇨ 自動的にクラビノーバがそのデータを受信し、本体のメモリーにデータが入ります。(このとき、本体のメモリーにあったデータは消されます。)

このあと、通常の再生操作で再生できます。

(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

・ファンクションモードのとき、および録音モードのときと再生中は...

バルクデータ受信はできません。

・バルクデータ送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

オン/オフ
F8.(CLP-840/820)バックアップON/OFF
の設定
オン/オフ
F9.(CLP-880/860)バックアップON/OFF
の設定

・バックアップとは...

メモリー(クラビノーバ本体内部の記憶装置)に記憶されている内容を電源を切っても消えずに残しておくことを言います。バックアップをONにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。バックアップをOFFにしておくと、電源をOFFにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ります。(基本設定一覧表がP54に掲載されています。)

- ・バックアップの設定をONにしても、電源を切って約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

機能グループごと(以下の小項目ごと)にバックアップのON/OFFを設定します。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目 **F84**(CLP-840/820) / **F94**(CLP-880/860) を選びます。
- 2 【+ / YES】を押して確定し、【◀FUNCTION▶】で以下の小項目を選び、【- / NO】【+ / YES】で設定します。

小項目

F81(CLP-840/820) / **F91**(CLP-880/860) 音色関連項目のバックアップ設定

F82(CLP-840/820) / **F92**(CLP-880/860) MIDI関連項目のバックアップ設定

F83(CLP-840/820) / **F93**(CLP-880/860) 音程、音律関連項目のバックアップ設定

F84(CLP-840/820) / **F94**(CLP-880/860) ペダル関連項目のバックアップ設定

設定範囲: オン/オフ
On/OFF

基本設定: OFF(すべてのグループ)

ただし「メモリーに録音された演奏データ」ここでの「バックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

・各小項目の内容

F81(CLP-840/820) / **F91**(CLP-880/860) 音色関連項目のバックアップ設定

- ・音色選択
- ・デュアルモードのON/OFFと音色
- ・デュアルの諸設定(**F3***)の設定内容(音色の組み合わせごと)
- ・スプリットモードのON/OFFと音色(CLP-880/860)
- ・スプリットの諸設定(**F4***)の設定内容(音色の組み合わせごと)(CLP-880/860)
- ・リバーブの種類と深さ(音色ごと)
- ・エフェクトの種類と深さ(音色ごと)(CLP-880/860/840)
- ・バリエーションのON/OFF(音色ごと)
- ・タッチの設定(FIXED時の音量も含む)
- ・外ロノームの拍子と音量(音量は、**F5** または **F6** の設定内容)
- ・ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定(**F6** または **F7** の設定内容)

F82(CLP-840/820) / **F92**(CLP-880/860) MIDI関連項目のバックアップ設定

MIDI機能の諸設定(**F7*** または **F8*** の設定内容)(**F77** **F78** または **F87** **F88** を除く)

F83(CLP-840/820) / **F93**(CLP-880/860) 音程、音律関連項目のバックアップ設定

- ・トランスポーズの設定
- ・音程の微調整(**F1** の設定)
- ・音律(調律法)の種類と基音の設定(**F2*** の設定内容)

F84(CLP-840/820) / **F94**(CLP-880/860) ペダル関連項目のバックアップ設定

- ・左ペダル機能の設定(**F4**) またはペダルの諸設定(**F5***) の設定内容

基本設定(=工場出荷時の設定)に戻すには...

いったん電源をOFFにし、右端の鍵盤(C7)を押したまま電源をONにします。

この操作でいつでも基本設定(=工場出荷時の設定)に戻すことができます。(ここでの「バックアップON/OFFの設定」も含めたすべての項目が基本設定に戻ります。また、本体のメモリーに録音された演奏データも消えます。(基本設定一覧表がP54に掲載されています。))

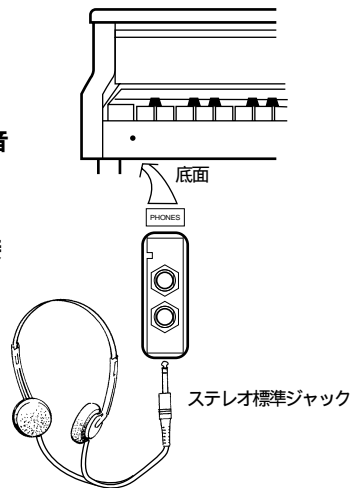
他の機器と接続する端子

【PHONES】端子

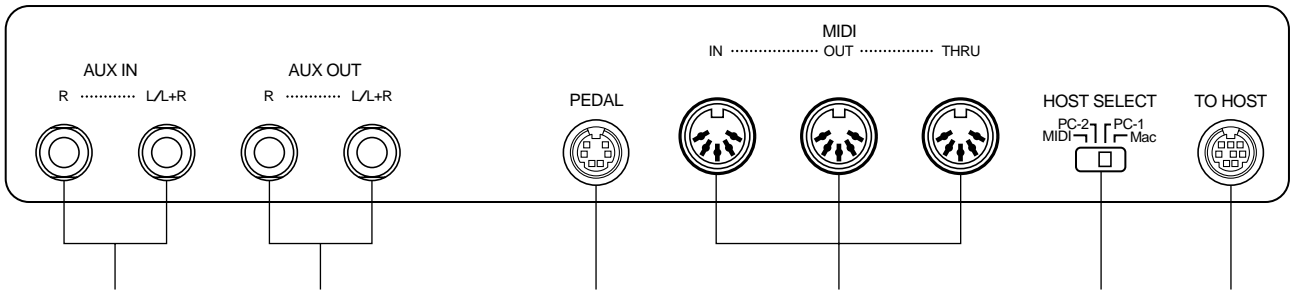
ヘッドフォンを【PHONES】端子(標準ステレオフォン端子)に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとクラビノーバのスピーカーからは音が出ません。

また、【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。(1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。)

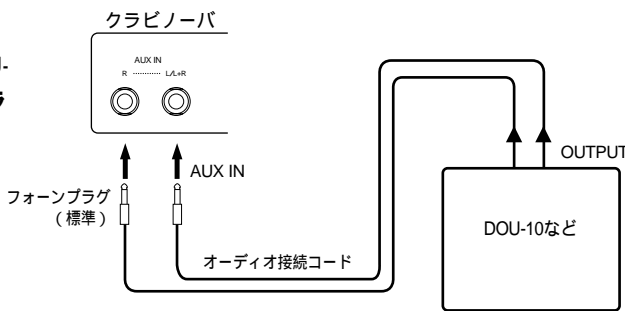


別売ヘッドフォン...
YAMAHAヘッドフォン HPE-160
(税別価格: 5,500円)

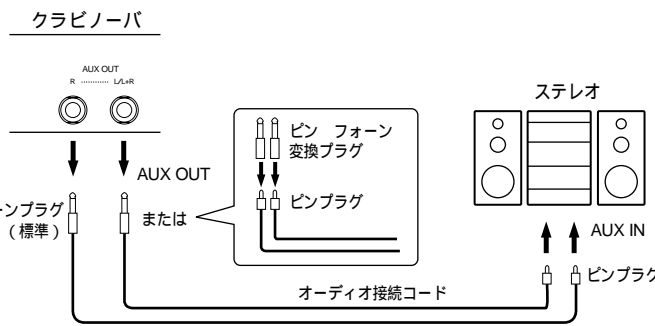


AUX IN【R】L/L+R】端子
AUX OUT【R】L/L+R】端子

- **AUX IN【R】L/L+R】端子**
 MDP10(「伴奏くん」)やDOU-10などの外部機器の音をクラビノーバ本体のスピーカーから出すことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。



- **AUX OUT【R】L/L+R】端子**
 クラビノーバをステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音したりできます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。ステレオに接続したときは、クラビノーバの【MASTER VOLUME】ではなく、ステレオ側で音量を調節してください。



PEDAL端子

本体のペダルコードを接続します。
 (P60からの「各モデルの組み立て方」を参照してください。)

MIDI【IN】OUT】THRU】端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続します。
 MIDI端子を使う場合は下記HOST SELECTスイッチを「MIDI」に設定してください。
 MIDIについての基礎的な解説を「MIDIについて」(P51)に掲載していますのでご参照ください。

HOST SELECTスイッチと【TO HOST】端子

【TO HOST】端子は...

パーソナルコンピューターに直接接続する端子です。

HOST SELECTスイッチは...

MIDI機器やパーソナルコンピューターを接続する場合に、機器やパーソナルコンピューターの種類に応じて切り替えるスイッチです。

詳しくは次項「パーソナルコンピューターとの接続」をご覧ください。

AUX OUT から出力した音を、AUX IN に戻さないでください。(AUX OUT から外部オーディオ機器に接続した場合、その機器から再びクラビノーバのAUX IN に接続しないでください。)
 クラビノーバのAUX IN から入力された音はそのままクラビノーバのAUX OUT から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

AUX IN からの入力音にはクラビノーバ本体の【MASTER VOLUME】や【BRILLIANCE】(CLP-880/860/840)は効きませんが、【REVERB】や【EFFECT】(CLP-880/860/840)の設定は効きません。

クラビノーバの【MASTER VOLUME】や【BRILLIANCE】(CLP-880/860/840)はAUX OUT からの出力音には効きません。

モノ入力、モノ出力には、AUX IN【L/L+R】、AUX OUT【L/L+R】をご使用ください。

■ パーソナルコンピューターとの接続

パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを、クラビノーバの【TO HOST】^{トウーホスト}またはMIDI^{ミディ}端子とパーソナルコンピューターをつないで楽しむことができます。

- ・クラビノーバを音源として使う場合、クラビノーバにない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

クラビノーバとコンピューターを接続する場合、2つの方法があります。

1. クラビノーバの【TO HOST】^{トウーホスト}端子を使った接続方法
2. クラビノーバのMIDI^{ミディ}端子を使った接続方法

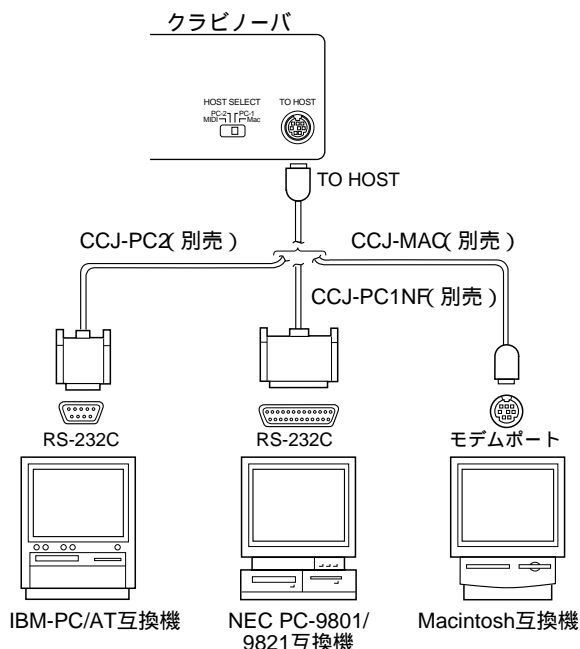
1. クラビノーバの【TO HOST】^{トウーホスト}端子を使った接続方法

コンピューターのシリアルポートRS-232C端子やRS-422端子とクラビノーバの【TO HOST】^{トウーホスト}端子を接続します。

この方法では、クラビノーバがMIDI^{ミディ}インターフェース機器(コンピューターとMIDI^{ミディ}機器の仲立ちをする機器)の役割も果たすため、専用のMIDI^{ミディ}インターフェース機器は不要です。

接続方法

コンピューターのシリアルポートRS-232C端子やRS-422端子を、専用のシリアルケーブルで、クラビノーバの【TO HOST】^{トウーホスト}端子に接続します。



Windows 3.1 / Windows 95をご使用のお客様へ
コンピューターのシリアルポートとクラビノーバの【TO HOST】^{トウーホスト}端子を接続して、データのやり取りをするためには、指定のMIDI^{ミディ}ドライバー(YAMAHA CBX-T3 Serial Driver [Windows 3.1対応] または YAMAHA CBX Driver [Windows 95対応])をコンピューターにインストールする必要があります。
MIDI^{ミディ}ドライバーについては、巻末の「クラビノーバインフォメーションセンター」にお問い合わせください。
Windows 95対応のドライバーは、インターネットのヤマハホームページ(XGライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/xg>)から、ダウンロードして直接入手することもできます。

接続するシリアルケーブルの種類

接続するコンピューターの種類に合わせて、下記のシリアルケーブルを使用してください。

- ・ Macintosh^{マックintosh}互換機: YAMAHA CCJ-Mac, または同等品
- ・ NEC PC-9801/9821^{エヌシーシーピーシー}互換機: YAMAHA CCJ-PC1NF, または同等品
- ・ IBM-PC/AT^{アイビーエムピーシー/エーティ}互換機: YAMAHA CCJ-PC2, または同等品
- ・ パーソナルコンピューターによっては上記にあてはまらない場合もありますので、各シリアルケーブルの内部配線図(P47)とパーソナルコンピューターの端子形状によりご判断ください。

クラビノーバのHOST SELECT^{ホスト セレクト}スイッチの設定

接続するパーソナルコンピューターの種類によって、クラビノーバのHOST SELECT^{ホスト セレクト}スイッチを切り替えます。

- ・ Macintosh^{マックintosh}互換機: 【Mac】(ボーレート=31,250bps, 1MHzのクロックを使用)
- ・ NEC PC-9801/9821^{エヌシーシーピーシー}互換機: YAMAHA CBX-T3 Serial Driver (Windows 3.1対応)をお使いの場合【PC-1】(ボーレート=31,250bps)
YAMAHA CBX Driver (Windows 95対応)をお使いの場合【PC-2】(ボーレート=38,400bps)
- ・ IBM-PC/AT^{アイビーエムピーシー/エーティ}互換機: 【PC-2】(ボーレート=38,400bps)

【ノート】 クラビノーバの【TO HOST】^{トウーホスト}端子を使用する場合は、最初に、クラビノーバとコンピューターの電源を切った状態でケーブルを接続し、その後コンピューター → クラビノーバの順番で、電源を入れてください。

【ノート】 クラビノーバの【TO HOST】^{トウーホスト}端子を使用しない場合は、必ず【TO HOST】^{トウーホスト}端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、クラビノーバが正常に動作しないことがあります。

【ノート】 ディスプレイに「H5F」と表示された場合は、コンピューターの電源が切れているか、ケーブルが正しく接続されていない、または、HOST SELECT^{ホスト セレクト}スイッチが正しく設定されていないか、コンピューター側のドライバーやMIDI^{ミディ}アプリケーションが正しく機能していません。この場合は、いったんクラビノーバとコンピューターの電源を切り、ケーブルの接続、HOST SELECT^{ホスト セレクト}スイッチの設定を確認してください。その後、コンピューター → クラビノーバの順番で電源を入れ直し、コンピューター側のドライバーやMIDI^{ミディ}アプリケーションが正しく機能しているか確認してください。

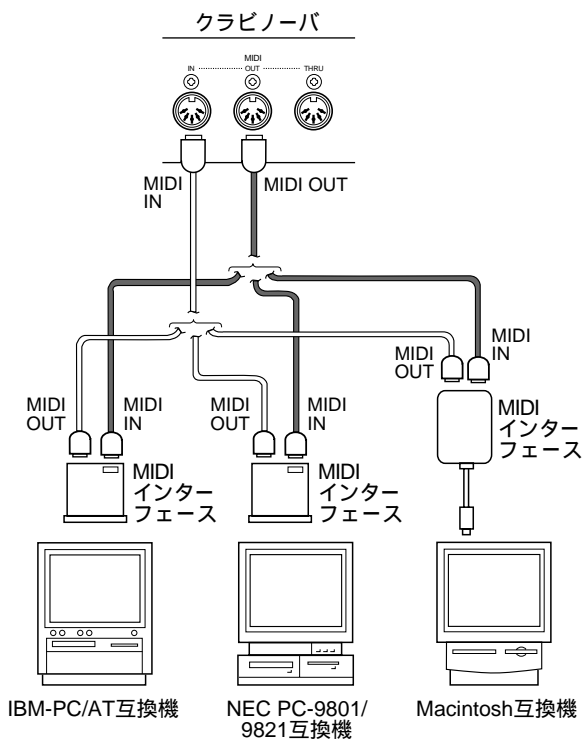
ノート 使用するソフトウェアの種類によって、上記の設定では動作しないものがあります。お使いになるソフトウェアの取扱説明書をよく読んで、適合するポーレートの位置にHOST SELECTスイッチを設定してください。

ノート HOST SELECTスイッチを【PC-2】【PC-1】【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)は使えません。(MIDIデータを送受信しません。)逆に、HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)が使えますが、【TO HOST】端子は使えません。(データを送受信しません。)

2. クラビノーバのMIDI端子を使った接続方法

接続方法

MIDIインターフェース機器を通じてクラビノーバのMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブルを使います。



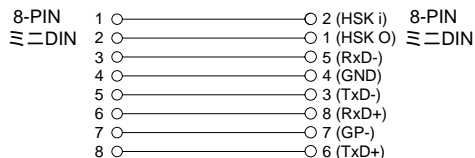
クラビノーバのHOST SELECTスイッチの設定
クラビノーバのHOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定します。

ノート HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)が使えますが、【TO HOST】端子は使えません。(データを送受信しません。)逆に、HOST SELECTスイッチを【PC-2】【PC-1】【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)は使えません。(MIDIデータを送受信しません。)

シリアルケーブルの内部配線図

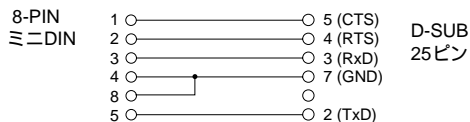
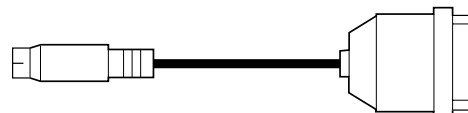
マッキントッシュ Macintosh互換機用

システムベリフェラル 8ケーブル(YAMAHA CCJ-MACまたは同等品)



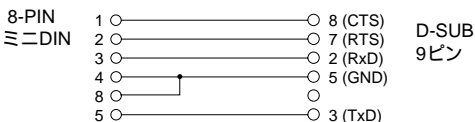
エヌイーシー ビーシー NEC PC-9801/9821 互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 25ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC1NFまたは同等品)



アイビーエム ビーシーエーティ IBM-PC/AT 互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 9ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC2または同等品)



プラグのピン番号

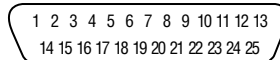
各プラグのピン番号は下記のとおりです。

オモテから見たピン番号

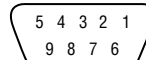
MINI DIN
8-PIN



D-SUB
25-PIN



D-SUB
9-PIN



パーソナルコンピュータによっては上記にあてはまらない場合もありますので上記各シリアルケーブルの内部配線図とパーソナルコンピュータの端子形状によりご判断ください。

Macintoshはアップルコンピュータ株式会社の商標です。

PC-9801/9821は日本電気株式会社の商標です。

IBM-PC/ATは、国際ナショナルビジネスマシーン株式会社の商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。その他、本書に記載されている会社名及び商品名等は、各社の登録商標及び商標です。

故障かな? と思ったら

現象	考えられる原因	解決法
クラビノーバの電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P9)
【POWER ^{パワー} 】を押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	ご心配いりません。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	【MASTER VOLUME ^{マスター ボリューム} 】が下がっています。	【MASTER VOLUME ^{マスター ボリューム} 】を上げてください。(P9)
	ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンを抜いてください。(P9)
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。(P41)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう	ペダルコードのプラグが【PEDAL ^{ペダル} 】端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを【PEDAL ^{ペダル} 】端子に確実に差し込んでください。(P60からの「各モデルの組み立て方」を参照してください。)
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。

ノート ディスプレイに **Scn** が表示された場合は、クラビノーバの内部に異常がありますので、お買い上げの楽器店か、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点までご連絡ください。

付 録

クラビノーバをMDP10(「伴奏くん」と組み合わせて楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

MDP10(「伴奏くん」)を使ってディスクソフトを楽しむ	P50
MIDIについて	P51
音色のご紹介	P52
デモ曲 曲名一覧表	P53
基本設定一覧表	P54
MIDIデータフォーマット	P55
MIDIインプリメンテーションチャート	P58
別売品のご紹介	P59
仕様	P59
CLP-880の組み立て方	P60
CLP-860/840/820の組み立て方	P64
索引	P66
保証とアフターサービス	P67

MDP10(「伴奏くん」)を使ってディスクソフトを楽しむ

・ MDP10とは---



スピーカー一体型のミュージックディスクソフト再生専用モジュールです。下記にご紹介するミュージックディスクソフトをはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。クラビノーバと組み合わせて使うと、ディスクソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習ができます。

MDP10で再生できる主なヤマハ別売ディスクソフトのご紹介

・「ピアノソフト」

ピアノ演奏データのソフトです。

内外の一流ピアニストの演奏が収録されています。お手本にもなる正統派の演奏から、華麗なるアレンジによる演奏までお楽しみいただけます。

一部MDP10ではご利用いただけないタイトルもあります。

・「ピアノ アンサンブル」

メインのピアノ演奏パートと多音色のバックアンサンブルパートから成る演奏データソフトです。鑑賞するだけでなく、アンサンブルパートをバックにピアノパートをご自身で演奏して楽しむこともできます。楽譜付きです。

・「ピアノ アソシエ」

「ピアノアソシエ」は、テキストとオーケストラ伴奏データなどが入った専用ディスクソフトを活用するピアノレッスンメソッドです。MDP10でこの専用ディスクソフトを再生して、ピアノレッスンに活用することができます。

・「XGソングデータライブラリー」

ヤマハの音源フォーマット「XG」に準拠した曲データのディスクソフトです。多彩なジャンルの曲データが豊富に取り揃えられています。

ミュージック Mumaについて

Mumaとは、ヤマハ独自の音楽データ店頭販売システムです。店頭に設置されているミュージックMuma専用コンピュータで、音楽データをアルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。ピアノソフトの多くを含む豊富な音楽データが取り揃えられています。

上記およびその他のディスクソフトについて詳しくは、ソフトカタログをご覧ください。

クラビノーバとMDP10を組み合わせてディスクソフトを楽しむ方法

クラビノーバとMDP10を組み合わせて使うと、下記のようなことができます。特別な接続は必要ありません。

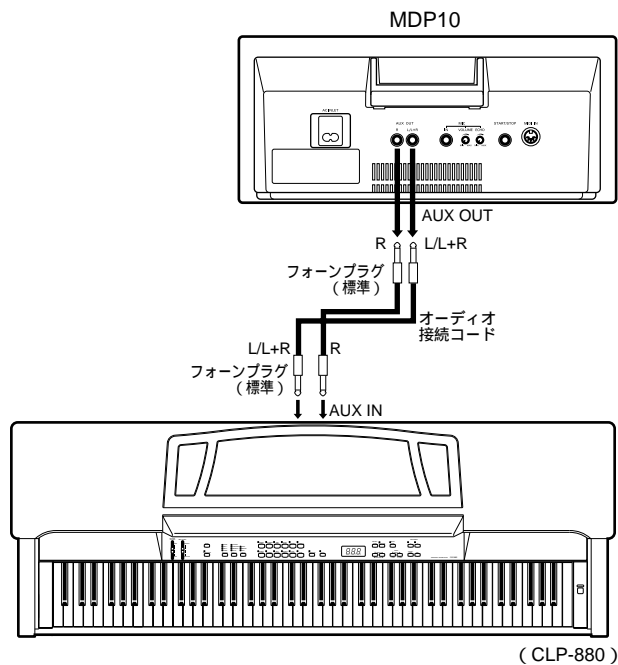
ソフトを再生しながらクラビノーバでアンサンブル演奏

MDP10で曲データの伴奏パートだけ再生しながら、メロディパートをクラビノーバでご自身で演奏して、アンサンブル演奏を楽しむことができます。

ソフトを使ってクラビノーバの練習

- ・ 右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているピアノ曲などのディスクソフトを使うと、練習したいパートの再生をOFFにしてクラビノーバで片手練習することができます。
- ・ 曲中のフレーズを設定してくり返し再生できますので、練習したい部分を集中して練習することができます。

クラビノーバとMDP10を接続して楽しむこともできます。クラビノーバとMDP10を接続しなくても上記のような楽しみ方ができますが、下図のように接続すると、ご自身の演奏音と一緒に、曲の再生音もクラビノーバのスピーカーから出すことができ、より豊かな音で楽しむことができます。



MDP10の取扱説明書もあわせてご参照ください。

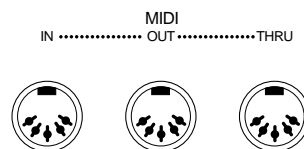
ミディ MIDI について

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) とは、MIDI 端子を備えた MIDI 機器間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI 機器間で MIDI データを送受信することにより、外部の MIDI 機器の演奏をコントロールしたり、外部の MIDI 機器から自機がコントロールされたりすることができます。

- MIDI では、演奏データや命令をデジタルデータ(数値に置き替えたデータ)で送受信します。
- ただし MIDI 機器でも、機種ごとに送受信できる MIDI データの内容が同じではないため、接続している MIDI 機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、各機種での「MIDI インプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。クラビノーバの MIDI インプリメンテーションチャートは P58 に掲載されています。

MIDI 端子



MIDI【 IN 】: MIDI データを受信する端子です。

MIDI【 OUT 】: MIDI データを送信する端子です。

MIDI【 THRU 】: MIDI【 IN 】から入ってきたデータをそのまま送信する端子です。

MIDI ケーブル

専用の MIDI ケーブルをご用意ください。

- ファンクションの MIDI 機能の諸設定 (CLP-880/860 の「F8」, CLP-840/820 の「F7」(P41 ~ 42)) で各種の MIDI 設定が行えます。
- MIDI についての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

音色のご紹介

	CLP-880	CLP-860	CLP-840	CLP-820	音色のご紹介
GRAND PIANO(グランドピアノ)					豊かに広がるグランドピアノの音。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
CLASSICAL PIANO(クラシカルピアノ)				-	明るさを押さえたしっとりとしたピアノの音です。
JAZZ PIANO(ジャズピアノ)			-	-	明るく張りのあるピアノの音。アンサンブルの中でも引き立つ音です。
ROCK PIANO(ロックピアノ)			-	-	強いタッチの激しい音。ロックなどを弾くのに最適です。
E.PIANO 1(エレクトリックピアノ1〔注〕)					シンセサイザー-DXのエレピの音。弾いた瞬間の金属的な固い音が特徴的です。
E.PIANO 2(エレクトリックピアノ2)				-	やわらかな音色のエレピの音。強く弾くと芯のある音がします。
HARPSICHORD(ハープシコード)					バロック音楽などでよく使われる楽器「ハープシコード」の音。「チェンバロ」ともいいます。
STRINGS(ストリングス)					大編成弦楽アンサンブルの音。 【 <small>バリエーション</small> VARIATION】を押すと、ピアノとのデュアルに最適な立ち上がりの遅い音になります。
PIPE ORGAN(パイプオルガン)					重厚なフルパイプオルガンの音。大聖堂を思わせるきらびやかな音です。
CHURCH ORGAN(チャーチオルガン)		-	-	-	賛美歌の伴奏などに使われる教会用の小さなオルガンの音。
JAZZ ORGAN(ジャズオルガン)		-	-	-	ジャズオルガンの音。【 <small>バリエーション</small> VARIATION】を押すと、ロータリースピーカーの効果を切り替えることができます。
BASS(ベース)			-	-	アップライトベースの音。ジャズやラテン音楽など幅広いジャンルの音楽が楽しめます。

(注)CLP-820では、E.PIANO(エレクトリックピアノ)

デモ曲 曲名一覧表

デモ曲

音 色	CLP-880	CLP-860	CLP-840	CLP-820	曲 名	作曲者
GRAND PIANO(グランドピアノ)					幻想即興曲	F.F.Chopin
CLASSICAL PIANO(クラシカルピアノ)				-	エリーゼのために	L.v.Beethoven
JAZZ PIANO(ジャズピアノ)			-	-	オリジナル	-
ROCK PIANO(ロックピアノ)			-	-	オリジナル	-
E.PIANO 1(エレクトリックピアノ 1〔注〕)					オリジナル	-
E.PIANO 2(エレクトリックピアノ 2)				-	オリジナル	-
HARPSICHORD(ハープシコード)					ガボット(フランス組曲3番より)	J.S.Bach
STRINGS(ストリングス)					アイネクライネナハトムジーク第3楽章	W.A.Mozart
PIPE ORGAN(パイプオルガン)					トリオソナタ第2番	J.S.Bach
CHURCH ORGAN(チャーチオルガン)		-	-	-	ノエル第1番	L.C.d'Aquin
JAZZ ORGAN(ジャズオルガン)		-	-	-	オリジナル	-
BASS(ベース)			-	-	オリジナル	-

(注)CLP-820では、E.PIANO(エレクトリックピアノ)

基本設定一覧表

基本設定(=工場出荷時の設定)を一覧にしました。

	CLP-880/860	CLP-840/820	バックアップグループ	
			CLP-880/860	CLP-840/820
音色選択	GRAND PIANO ^{グランドピアノ}	GRAND PIANO ^{グランドピアノ}	F9.1	F8.1
デュアル機能	OFF	OFF		
スプリット機能	OFF	-		
スプリット左側音色	BASS	-		
リバーブの種類	音色ごと	音色ごと		
リバーブの深さ	音色ごと	音色ごと		
エフェクトの種類	音色ごと	音色ごと		
エフェクトの深さ	音色ごと	音色ごと		
タッチの種類	MEDIUM ^{ミディアム}	MEDIUM ^{ミディアム}		
タッチがFIXED ^{フィクス} のときの音量	64	64		
メロノーム	OFF	OFF	-	-
メロノームの拍子	α 無拍子)	α 無拍子)	F9.1	F8.1
テンポ	120	120	-	-
トランスポーズ	0	0	F9.3	F8.3

「-」の項目はバックアップはありません。

ファンクションの基本設定

CLP-880/860	CLP-840	CLP-820			バックアップグループ			
					CLP-880/860	CLP-840/820		
F1.	F1.	F1.	音程	A3=440Hz				
F2.1	F2.1	F2.1	音律	1(平均律)	F9.3	F8.3		
F2.2	F2.2	F2.2	基音	C				
F3.1	F3.1	F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと	F9.1	F8.1		
F3.2	F3.2	F3.2	デュアル 音程のずらし方の設定	音色の組み合わせごと				
F3.3、F3.4	F3.3、F3.4	F3.3、F3.4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと				
F3.5、F3.6	F3.5、F3.6	-	デュアル エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと				
F4.1	-	-	スプリット ポイント	F#2				
F4.2	-	-	スプリット 音量バランス	音色の組み合わせごと				
F4.3、F4.4	-	-	スプリット オクターブ設定	音色の組み合わせごと				
F4.5、F4.6	-	-	スプリット エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと				
F4.7	-	-	スプリット ダンパーペダルの有効域	ALL				
F5.1	F4.	F4.	左ペダル機能	1(ソフトペダル)			F9.4	F8.4
F5.2	-	-	ダンパーモード	α 連続可変式)				
F5.3	-	-	共鳴効果の深さ	12				
F6.	F5.	F5.	メロノーム音量	10	F9.1	F8.1		
F7.	F6.	F6.	ピアノ50曲のパート再生OFF ^{オフ} 時の音量	5				
F8.1	F7.1	F7.1	MIDI ^{ミディ} 送信チャンネル	1	F9.2	F8.2		
F8.2	F7.2	F7.2	MIDI ^{ミディ} 受信チャンネル	ALL				
F8.3	F7.3	F7.3	ローカルコントロール	ON				
F8.4	F7.4	F7.4	プログラムチェンジ送受信	ON				
F8.5	F7.5	F7.5	コントロールチェンジ送受信	ON				
F8.6	F7.6	F7.6	MIDI ^{ミディ} トランスポーズ量	0				
F9.	F8.	F8.	バックアップの設定	すべてOFF ^{オフ}			*	*

「*」の項目は常にバックアップされます。

MIDI データフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH] [kkH] [vvH]
 9nH = ノートオン/オフイベント(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.
 (送信:09H~7FH=A2~C8)
 (受信:00H~7FH=C2~G8)*1
 vvH = ペロシティ
 (ノートオン=01H~7FH, ノートオフ=00H)

[8nH] [kkH] [vvH] (受信のみ)
 8nH = ノートオフ(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.(00H~7FH=C2~G8)
 vvH = ペロシティ

*1 ただし音色によって発音可能範囲を超えた場合は、
 オクターブ単位で折り返して発音します。

2. コントロールチェンジ

[BnH] [ccH] [vvH]
 BnH = コントロールチェンジ(n=チャンネルNo.)
 ccH = コントロールNo.
 vvH = コントロール値

1) バンク選択

ccH パラメーター 値(vvH)
 00H バンク選択MSB 00H:ノーマル
 20H バンク選択LSB 00H~7FH

プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理
 は保留されます。

2) メインボリューム(受信のみ)

ccH パラメーター 値(vvH)
 07H ボリューム 00H~7FH

3) エクスプレッション

ccH パラメーター 値(vvH)
 0BH エクスプレッション 00H~7FH

4) ダンパーペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 40H ダンパー 00H~7FH

5) ソステヌートペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 42H ソステヌート 00H~3FH:オフ, 40H~7FH:オン

6) ソフトペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 43H ソフトペダル 00H~3FH:オフ, 40H~7FH:オン

7) エフェクト1デプス(リバーブ・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
 5BH エフェクト1デプス 00H~7FH

リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定しま
 す。

8) エフェクト4デプス(バリエーション・エフェクト・センドレベル)

(CLP-880/860/840)
 ccH パラメーター 値(vvH)
 5EH エフェクト4デプス 00H~7FH

3. モード・メッセージ

[BnH] [ccH] [vvH]
 BnH = コントロールイベント(n=チャンネルNo.)
 ccH = モード・メッセージNo.
 vvH = モード・メッセージ値

1) オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 78H オール・サウンド・オフ 00H

該当チャンネルの発音中の音を、すべて消音します。た
 だし、ノートオンやホールドオンなどのチャンネルメッ
 セージの状態は保持します。

2) リセット・オール・コントローラー

ccH コントローラー 値(vvH)
 79H リセット・オール・コントローラー 00H

以下のようにリセットされます。

コントローラー	設定値
エクスプレッション	127(最大)
ダンパーペダル	(オフ)
ソステヌート	(オフ)
ソフトペダル	(オフ)

3) ローカルコントロール(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7AH ローカルコントロール 00H(オフ) 7FH(オン)

4) オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 7BH オール・ノート・オフ 00H

該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにし
 ます。ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場
 合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

5) オムニ・オフ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7CH オムニ・オフ 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行いま
 す。

6) オムニ・オン(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7DH オムニ・オン 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行いま
 す。

7) モノ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7EH モノ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行いま
 す。

8) ポリ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7FH ポリ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行いま
 す。

補足

- ファンクションでコントロールチェンジON/OFFがOFF
 されているときは、コントロールチェンジは送受信されま
 せん。ただし、Bank MSB/LSB、モードメッセージを除き
 ます。
- ローカル・オン/オフ、オムニ・オン/オフは送信しませ
 せん。(オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合
 わせません。)
- ボイス・バンク(MSB、LSB)受信時は、順番に関係なく
 受け付けた番号を内部バッファに保存し、プログラム
 チェンジを受信した時点のバッファ値を用いて実際の
 音色を決めます。
- 本機は常にマルチティンパー・モード、ポリ・モードであ
 り、オムニ・オン/オムニ・オフ/モノ/ポリ・モードを受信
 しても、モードは変わりません。

4. プログラムチェンジ

[CnH] [ppH]
 CnH = プログラムチェンジ(n=チャンネルNo.)
 ppH = プログラムチェンジNo.

ファンクションでプログラムチェンジON/OFFがOFF
 されているときは、プログラムチェンジは送受信されま
 せん。Bank MSB/LSBも送受信されません。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、<付
 表1>をご参照ください。

5. システム・リアルタイム・メッセージ

1) アクティブ・センシング

[FEH]

200msecごとに送信します。
 一度FEHを受信した後、約400msec以上MIDIからの信
 号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノ
 ート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したとき
 と同じ処理をします。

2) クロック

[F8H]

96分タイミングで送信します。
 エクスクループ・メッセージでクロックがエクスター
 ナルにセットされた場合に、96分タイミングとして受信し
 ます。

3) スタート

[FAH]

レコーダスタート時に送信します。
 受信するとソングがスタートします。
 クロックがInternalに設定されているときは受信しませ
 せん。

4) ストップ

[FCH]

レコーダストップ時に送信します。
 受信するとソングがストップします。
 クロックがInternalに設定されているときは受信しませ
 せん。

MIDI受信時にエラーが起こったときは、全チャンネル
 のダンパー、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール
 ノート・オフします。

<付表1>

各音色のプログラムチェンジナンバー

P.C.#=Program Change number

	CLP-880				CLP-860							
	通常音色	VARIATION音色			通常音色	VARIATION音色						
	MSB	LSB	P.C.#	MSB	LSB	P.C.#	MSB	LSB	P.C.#			
GRAND PIANO	0	112	0	0	113	0	0	112	0	113	0	
CLASSICAL PIANO	0	114	0	0	115	0	0	114	0	115	0	
JAZZ PIANO	0	112	1	0	113	1	0	112	1	0	113	1
ROCK PIANO	0	114	1	0	115	1	0	114	1	0	115	1
E.PIANO 1	0	112	5	0	112	88	0	112	5	0	112	88
E.PIANO 2	0	112	4	0	118	4	0	112	4	0	118	4
HARPSICHORD	0	112	6	0	115	6	0	112	6	0	115	6
STRINGS	0	112	48	0	113	49	0	112	48	0	113	49
PIPE ORGAN	0	112	19	0	113	19	0	112	19	0	113	19
CHURCH ORGAN	0	115	19	0	114	19						
JAZZ ORGAN	0	112	16	0	113	16						
BASS	0	112	32	0	114	32	0	112	32	0	114	32

	CLP-840				CLP-820							
	通常音色	VARIATION音色			通常音色	VARIATION音色						
	MSB	LSB	P.C.#	MSB	LSB	P.C.#	MSB	LSB	P.C.#			
GRAND PIANO	0	112	0	0	113	0	112	0	0	113	0	
CLASSICAL PIANO	0	114	0	0	115	0						
E.PIANO (注)	0	112	5	0	112	88	112	5	5	0	112	88
E.PIANO 2	0	112	4	0	118	4						
HARPSICHORD	0	112	6	0	115	6	112	6	6	0	115	6
STRINGS	0	112	48	0	113	49	112	48	48	0	113	49
PIPE ORGAN	0	112	19	0	113	19	112	19	19	0	113	19

(注)CLP-820ではE.PIANO

6. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ヤマハMIDIフォーマット)

[F0H] [43H] [0nH] [7CH] [F7H]

F0H,43H,0nH,7CH :n=チャンネルNo.
00H,2CH :データ長
43H,4CH,20H,20H :CL
43H,4CH,50H,27H,39H,38H:CLP-880/860/840/820共通
30H,30H : (バ・シ・オンx.y)

[パネルデータ]

[チェックサム(1バイト)]=0-(43H+4CH+20H+.....+データエンド)

F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

[パネルデータ詳細]

	CLP-880/860	CLP-840	CLP-820
(1)1st Voice			
(2)Dual On/Off			
(3)Dual Voice			
(4)Dual Balance			
(5)Dual Detune			
(6)Dual Voice1 Octave			
(7)Dual Voice2 Octave			
(8)Dual Voice1 Effect Depth			
(9)Dual Voice2 Effect Depth			
(10)Split On/Off		x	x
(11)Split Voice		x	x
(12)Split Point		x	x
(13)Split Balance		x	x
(14)Split Voice1 Octave		x	x
(15)Split Voice2 Octave		x	x
(16)Split Voice1 Effect Depth		x	x
(17)Split Voice2 Effect Depth		x	x
(18)Split Dumper Mode		x	x
(19)Reverb Type 1			
(20)Reverb Type 2			
(21)Reverb Depth1			
(22)Reverb Depth2			
(23)Effect Type 1			x
(24)Effect Type 2			x
(25)Effect Depth			x
(26)Variation 1 On/Off			
(27)Variation 2 On/Off			
(28)Touch Sensitivity			
(29)Fixed Data			
(30)Left Pedal(Soft/Start)			
(31)テンポ(絶対値 下位byte)			
(32)テンポ(絶対値 上位byte)			

「x」は無効なデータです。
パネルデータ送信要求は受信しません。

7. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ)

1)ユニバーサル・リアルタイム・メッセージ
[F0H] [7FH] [XnH] [04H] [01H] [!!H] [mmH] [F7H]

MIDIマスターボリューム

全チャンネルの音量が一度に変化します。
MIDIマスター・ボリュームを受信したときは、MIDI入力
チャンネルのみに効果があり、パネルのボリュームは変
化しません。

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
7FH :ユニバーサル・リアルタイム
7FH :ID of target device
04H :サブID #1(機種コントロール・メッセージ)
01H :サブID #2(マスターボリューム)
!!H :ボリュームLSB
mmH :ボリュームMSB
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
7FH :ユニバーサル・リアルタイム
XnH :Xは無視、nは0~Fを受信
04H :サブID #1(機種コントロール・メッセージ)
01H :サブID #2(マスターボリューム)
!!H :ボリュームLSB
mmH :ボリュームMSB
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

2)ユニバーサル・ノン・リアルタイム・メッセージ(GM ON)
[F0H] [7EH] [XnH] [09H] [01H] [F7H]

ジェネラルMIDIモード・オン

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
7EH :ユニバーサル・ノン・リアルタイム
7FH :ID of target device
09H :サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H :サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
7EH :ユニバーサル・ノン・リアルタイム
XnH :Xは無視、nは0~Fを受信
09H :サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H :サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

オンを受信することにより、MIDIがリセットされて初期
状態になります。このメッセージの実行には、約50msec
かかるため、次のメッセージとの間隔を注意してくださ
い。

8. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(XG規格)

1)XGネイティブ・パラメーター・チェンジ
[F0H] [43H] [1nH] [4CH] [hhH] [mmH]
[!!H] [ddH] [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
43H :ヤマハ
1nH :n=CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F
4CH :XGモデルID
hhH :アドレスHigh
mmH :アドレスMid
!!H :アドレスLow
ddH :データ
: :
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

2)バルクダンプ(受信のみ)

[F0H] [43H] [0nH] [4CH] [aaH] [bbH] [hhH]
[mmH] [!!H] [ddH] [ccH] [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス
43H :ヤマハ
0nH :n=CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F
4CH :XGモデルID
aaH :バイト・カウント
bbH :バイト・カウント
hhH :アドレスHigh
mmH :アドレスMid
!!H :アドレスLow
ddH :データ
: :
ccH :チェック・サム
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

XGシステム・オンを受信すると、必要なパラメーター、
コントロール・チェンジ等リセットし、初期状態になりま
す。このメッセージの実行には、約50msecかかるため、
次のメッセージとの間隔を注意してください。
XGネイティブ・パラメーター・チェンジは、データサイズ
が2または4のパラメーターは、そのサイズ分のデータを
送信します。
XGバルクダンプのアドレスおよびバイトカウントは、付
表2のMIDIパラメーター・チェンジ表(システム)を参照
してください。付表中・ータルサイズで区切られたデー
タシリーズが一つのバルクになり、そのシリーズの先頭
アドレスのみバルクデータのアドレスとして有効です。

<付表2>

MIDIパラメーター・チェンジ表(システム)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
00 00 00	4	020C ~ 05F4	マスター・チューン	-50 ~ +5[セント]	00 04 00 00
01				1stビット3~0 ビット15~12	400
02				2ndビット3~0 ビット11~8	
03				3rdビット3~0 ビット7~4	
				4thビット3~0 ビット3~0	
04	1	00 ~ 7F	マスター・ボリューム	0 ~ 127	7F
05	1				
06	1	34 ~ 4C	トランスポーズ	-12 ~ +12[セント]	40
7E		0	XGシステム・オン	00=XGシステム・オン	
7F		0	オール・パラメーター・リセット	00=オン(受信のみ)	
トータルサイズ	07				

020CH以下の値は-50セントになります。
05F4H以上の値は+50セントになります。

28H ~ 33Hの値は12 ~ 1に折り返ります。
4DH ~ 58Hの値は+1 ~ +12に折り返ります。

<付表3>

MIDIパラメーター・チェンジ表(エフェクト1)

リバーブ、コーラス、バリエーション・タイプのナンバーは、エフェクトMIDIマップを参照してください。

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
02 01 00	2	00 ~ 7F	リバーブ・タイプMSB	エフェクトMIDIマップを参照	01 (=ホール1)
		00 ~ 7F	リバーブ・タイプLSB	00:ベーシック・タイプ	00
02 01 40	2	00 ~ 7F	バリエーション・タイプMSB	エフェクトMIDIマップ参照	00 (=エフェクトなし) (CLP-880/860/840)
		00 ~ 7F	バリエーション・タイプLSB	00:ベーシック・タイプ	00 (CLP-880/860/840)

注意:ここでいうバリエーション・エフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

<付表4>

MIDIパラメーター・チェンジ表(マルチパート)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
08 nn 11	1	00 ~ 7F	ドライレベル	0 ~ 127	7F (CLP-880/860/840)

<付表5>

エフェクトMIDIマップ(Reverb)

	MSB	LSB
ROOM	02H	10H
HALL1	01H	10H
HALL2	01H	11H
STAGE	03H	10H

<付表6>

エフェクトMIDIマップ(Effect) (CLP-880/860/840)

	MSB	LSB
CHORUS	42H	10H
SYMPHONIC	44H	10H
TREMOLO	46H	10H
DELAY	05H	10H

9. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(クラビノーバMIDI準拠)

[F0H] [43H] [73H] [xxH] [nnH] [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス

43H :ヤマハ

73H :クラビノーバ

xxH :機種ID (CLP-880/860/840/820共通:50HまたはCLP共通:01H)

nnH :サブステータス

コントロール nn

内部クロック 02H

外部クロック 03H

バルクデータ 06H(06Hの後にバルクデータが続く)

F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

nn=02H,03Hの機種IDは、機種(50H)の代わりに、クラビノーバ共通ID(01H)がきても受け付けます。

シーケンスデータバルクダンブ

F0H,43H,73H

xxH :機種ID (CLP-880:56H, CLP-860:54H, CLP-840:53H, CLP-820:52H,)

06H :バルクID

05H :シーケンスデータ

0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH :データレングス

[バルクデータ] :

[チェックサム(1バイト)] :0 - sum(バルクデータ)

F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

10. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(特殊操作子)

[F0H] [43H] [73H] [xxH] [11H] [0nH] [ccH] [vvH] [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス

43H :ヤマハ

73H :クラビノーバ

50H :機種ID (CLP880/860/840/820共通)

11H :SK特殊操作子

0nH :コントロールMIDIチェンジ(n=特殊操作子チャンネルNo.)

cc :コントロールNo.

dd :値

F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

コントロール オン ccH vvH

スプリット・ポイント 常に00H 14H スプリット・キーNo. (CLP-880/860)

外口ノーム 常に00H 1BH 00H:オフ

01H:--

02H:2/4

03H:3/4

04H:4/4

06H:6/4

7FH:ビートなし

ダンパーレベル Ch:00 ~ 0FH 3DH (Chごとのピアノ・ダンパー量を設定する)

(CLP-880/860)

00H ~ 7FH

チャンネル・デチューン Ch:00 ~ 0FH 43H (Chごとのデチューン

量を設定する)

00H ~ 7FH

ボイス・リザーブ Ch:00 ~ 0FH 45H 00H:リザーブ・オフ

7FH:オン*1

*1 リザーブ・オンの間に受信したボリューム、エクスプレッションは次のキー・オン時から有効になります。通常はリザーブ・オフです。

11. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(その他)

[F0H] [43H] [1nH] [27H] [30H] [00H] [00H] [mmH] [llH] [ccH] [F7H]

マスター・チューニング(XGと後着優先)で、全チャンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

F0H :エクスクルーシブ・ステータス

43H :ヤマハ

1nH :n = CLPからの送信時は常に0、受信時は0 ~ F

27H :TG100の機種ID

30H :サブID

00H :

00H :

mmH :マスターチューニングMSB

llH :マスターチューニングLSB

ccH :ccはなんでもよい。(7FH以下)

F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

Function...	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default Channel Changed	1 1 - 16	1 1 - 16	
Mode Default Messages Altered	3 X *****	1 X X	*1 Poly Mode Only
Note Number : True voice	9 - 120 *****	0 - 127 21 - 108	
Velocity Note ON Note OFF	0 9nH, v=1-127 X 9nH, v=0	0 v=1-127 X	
After Key's Touch Ch's	X X	X X	
Pitch Bend	X	X	
Control Change	0,32 0 7 X 11 X 64 0 66 0 67 0 91 0 94 0 120 X 121 X	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Bank Select Volume Expression Damper Sostenuto Soft Pedal Reverb Depth Effect Depth All Sound Off Reset All Controllers
Prog Change : True #	0 *****	0	
System Exclusive	0	0	
Common : Song Pos. : Song Sel. : Tune	X X X	X X X	
System : Clock Real Time: Commands	0 0	0 0	
Aux : Local ON/OFF : All Notes OFF Mes- : Active Sense sages : Reset	X 0 0 X	0 0 (123 - 127) 0 X	
Notes: *1 = Receive Mode is always multi timbre and Poly mode.			

Mode 1 : OMNI ON , POLY Mode 2 : OMNI ON , MONO o : Yes
 Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF, MONO x : No

別売品のご紹介

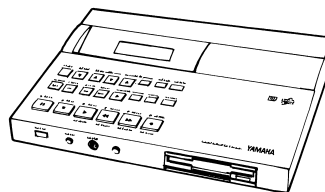
ヘッドホン HPE-160

¥5,500(税別価格)



ディスクオーケストラユニット DOU-10

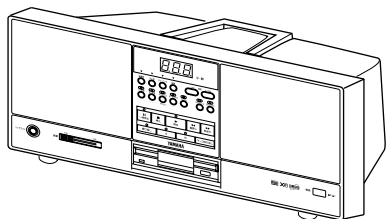
¥69,000(税別価格)



音源を備えた16トラックのシーケンサー(録音/再生機器)です。クラビノーバと接続して「ピアノアンサンブル」を再生したり、クラビノーバにない多彩な音色で演奏/録音したりするのに最適です。

ミュージック データ プレーヤー MDP10(伴奏くん)

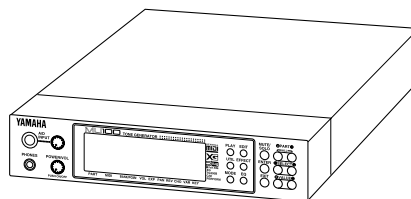
¥58,000(税別価格)



スピーカー一体型のミュージックデータ再生専用モジュールです。「ピアノソフト」(P50)や「ピアノアンサンブル」(P50)をはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。クラビノーバと組み合わせて、ソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習もできます。(P50)

トーンジェネレーター MU100

¥89,000(税別価格)



「XG音色配列」、「GMシステムレベル1音色配列」に対応した音源モジュールです。クラビノーバと接続して多彩な音色で演奏することができます。

仕様

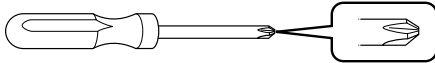
	CLP-880	CLP-860	CLP-840	CLP-820
鍵盤	88鍵(A-1~C7)			
音源	AWMダイナミックステレオサンプリング		AWMステレオサンプリング	
最大同時発音数	最大64音		最大32音	
音色数	12+各音色バリエーション	10+各音色バリエーション	7+各音色バリエーション	5+各音色バリエーション
効果	プリリانس、リバーブ(ルーム/ホール1/ホール2/ステージ)、 エフェクト(コーラス/シンフォニック/トレモロ/ディレイ)			リバーブ(ルーム/ホール1/ ホール2/ステージ)
コントロール	デュアル、スプリット、マトロノーム、 トランスポーズ、タッチ(ハード/ミディアム/ ソフト/フィックス)、各種ファンクション		デュアル、マトロノーム、トランスポーズ、 タッチ(ハード/ミディアム/ソフト/フィックス)、 各種ファンクション	
レコーダー	2トラック録音/再生、テンポ、シンクロスタート			
ペダル	ダンパー、ソステヌート、ソフト			
デモ	各音色デモ曲、ピアノ曲50曲			
付属端子	AUX出力端子(R、L/L+R):出力インピーダンス600、AUX入力端子(R、L/L+R):入力インピーダンス10k / 入力感度-10dBm、ヘッドホン端子×2、TO HOST端子、MIDI(IN、OUT、THRU)、ペダル端子			
メインアンプ	120W(60W×2)	80W(40W×2)	40W(20W×2)	40W(20W×2)
スピーカー	14cm×2、3cm(ドーム型)×2	14cm×2、5cm×2	14cm×2	16cm×2
定格電源	AC100V、50/60HZ			
消費電力	70W	48W	45W	35W
寸法 [間口×奥行き×高さ] ()内は譜面立てを立えた場合	1427mm×506mm×969mm (1427mm×506mm×1132mm)	1414mm×512mm×887mm (1414mm×512mm×1051mm)	1397mm×515mm×870mm (1397mm×515mm×1033mm)	1397mm×515mm×871mm (1397mm×515mm×1037mm)
重量	70kg	56kg	56kg	53kg
装備	キーカバー、譜面立て			
付属品	高低自在イスBC-15、ヘッドホン、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)			

・仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。

CLP-880 の組み立て方

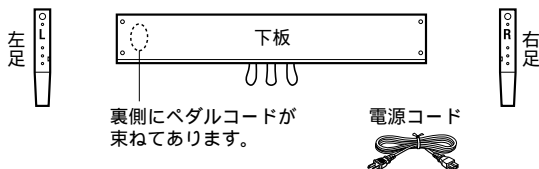
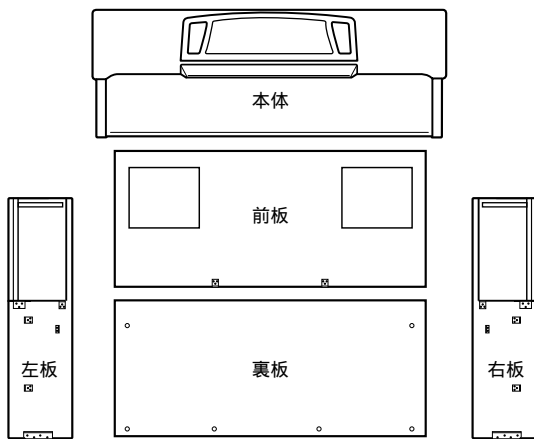
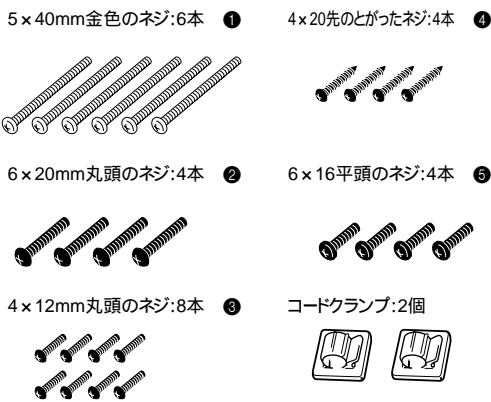
- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となります場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

プラス (+) のドライバーを用意してください。

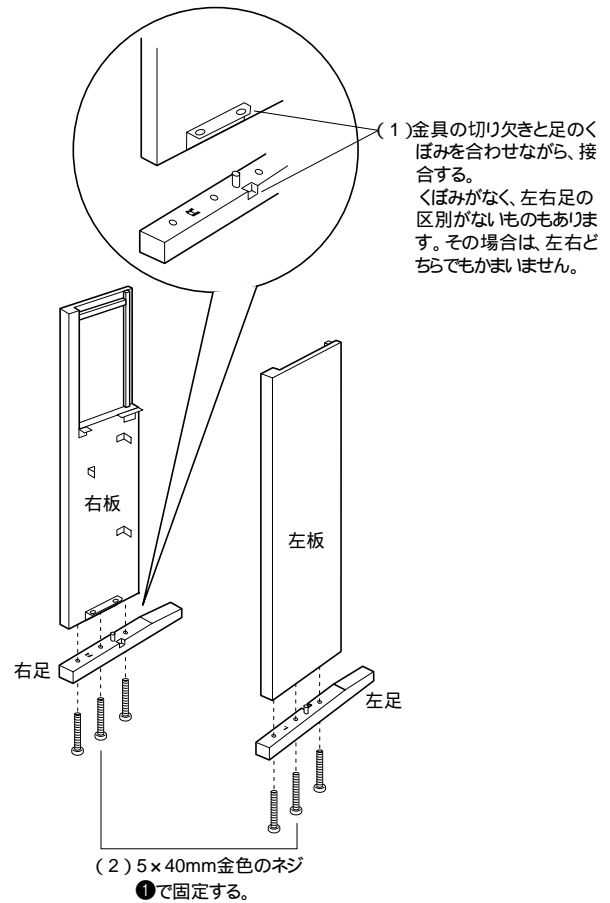


1 すべての部品を取り出します。部品がすべてそろっているか確かめます。

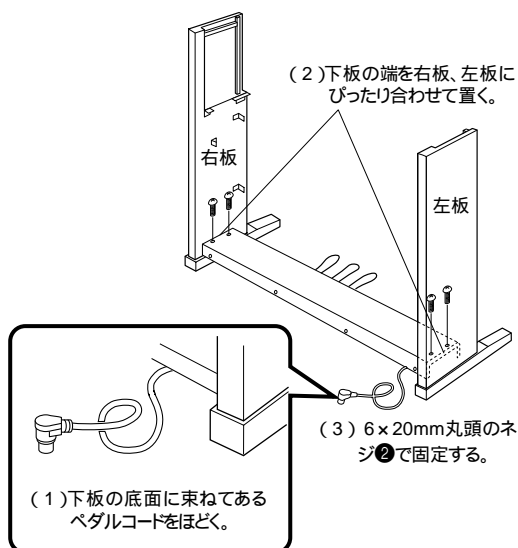
ネジセット



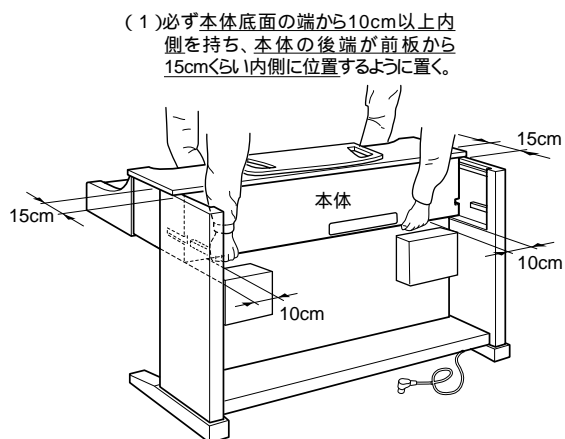
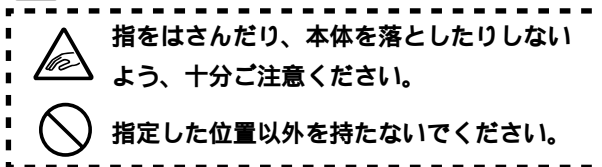
2 右板と右足、左板と左足を固定します。



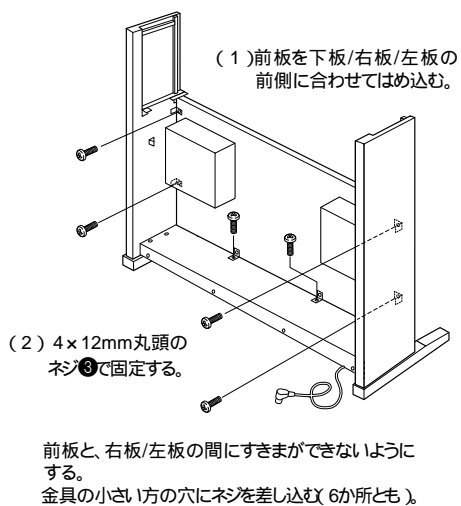
3 下板を固定します。



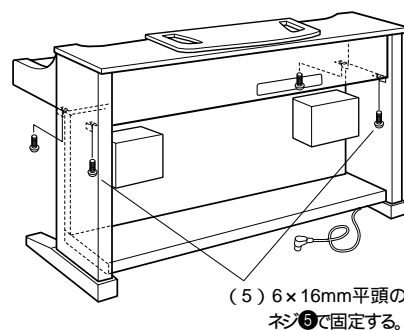
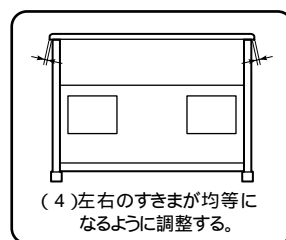
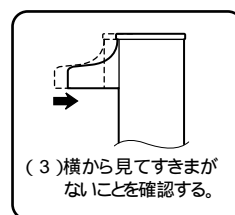
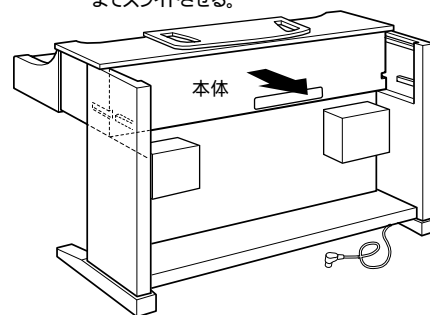
5 本体を乗せ、固定します。



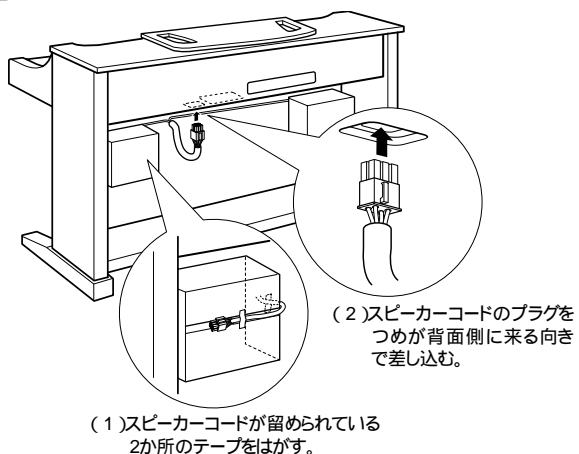
4 前板を固定します。



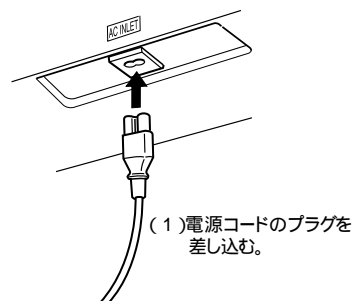
(2) 本体を背面方向いっぱいまでスライドさせる。



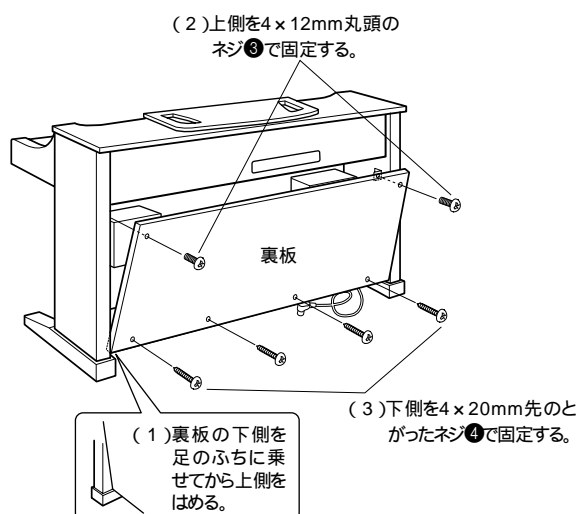
6 スピーカーコードを接続します。



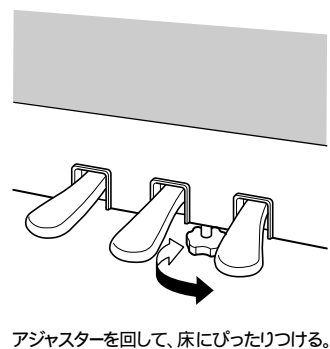
9 電源コードを接続します。



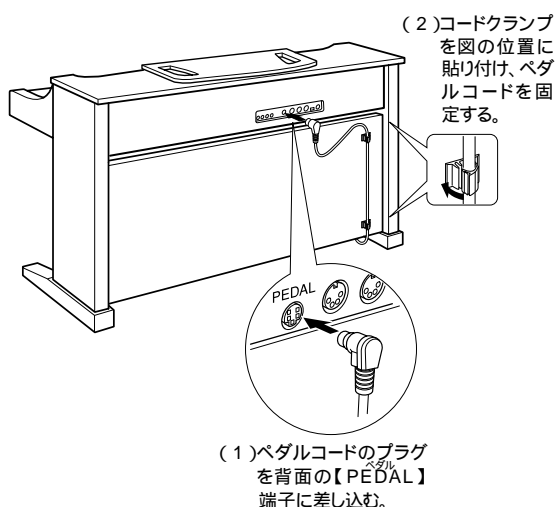
7 裏板を固定します。



10 アジャスターを回します。



8 ペダルコードを接続します。



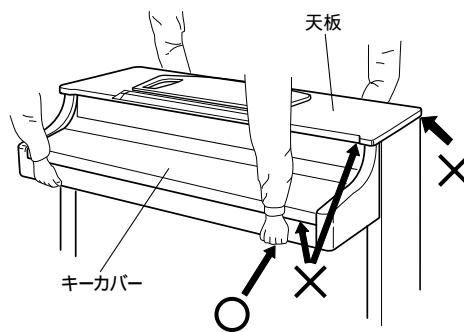
組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- ・ 部品が余っていませんか?
組み立て手順を再確認してください。
- ・ 部屋のドア等がクラビノーバにあたいませんか?
クラビノーバを移動してください。
- ・ クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか?
ネジを確実に締めてください。
- ・ ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか?
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ・ ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか?
確認してください。
- ・ 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。



天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

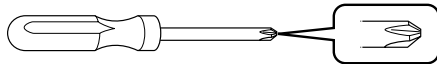


CLP-860/840/820 の組み立て方

説明のイラストはCLP-820を使用しますが、CLP-860/840/820共、組み立て方は同じです。

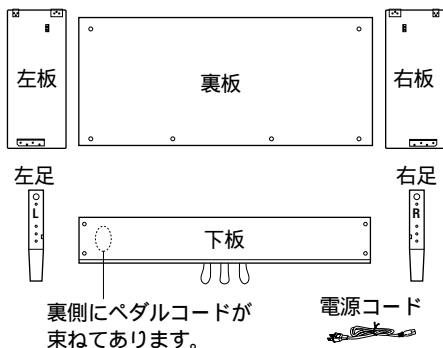
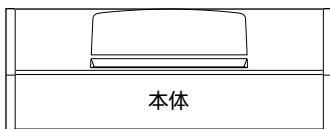
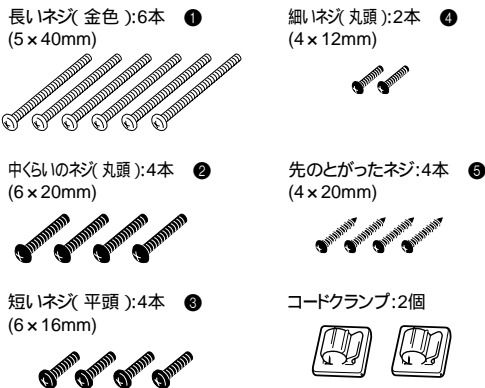
- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のもは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

プラス (+) のドライバーを用意してください。

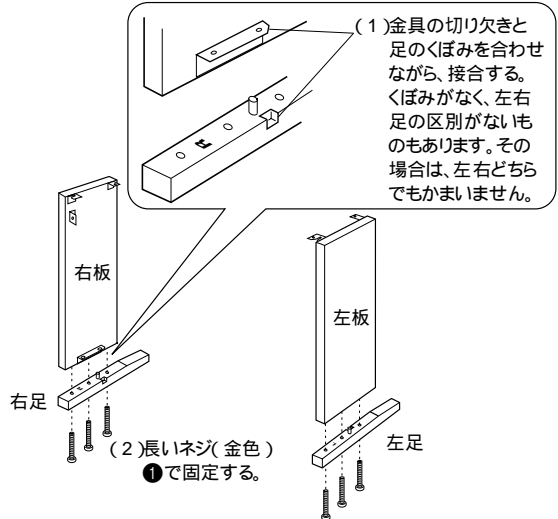


1 すべての部品を取り出します。部品がすべてそろっているか確かめます。

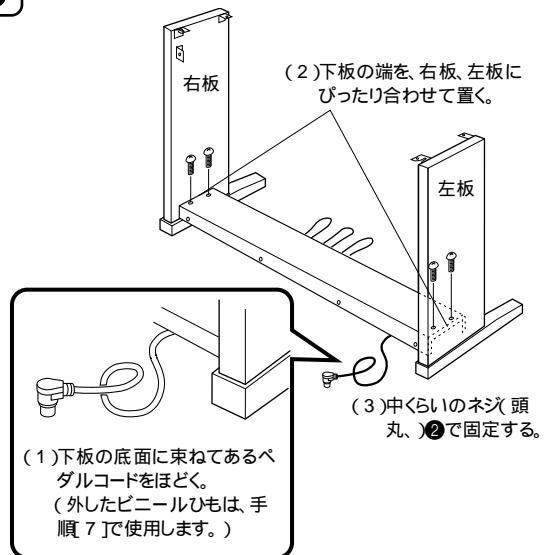
ネジセット



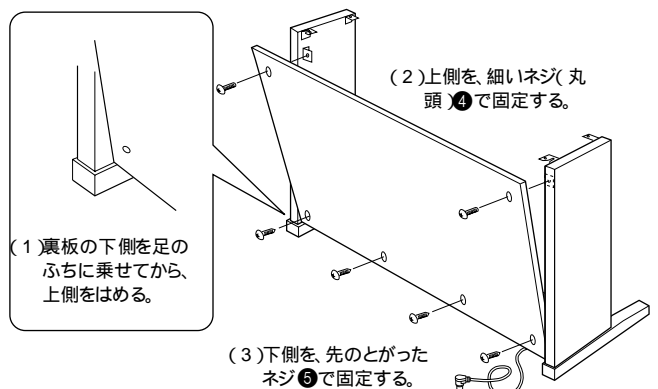
2 右板と右足、左板と左足を固定します。



3 下板を固定します。



4 裏板を固定します。



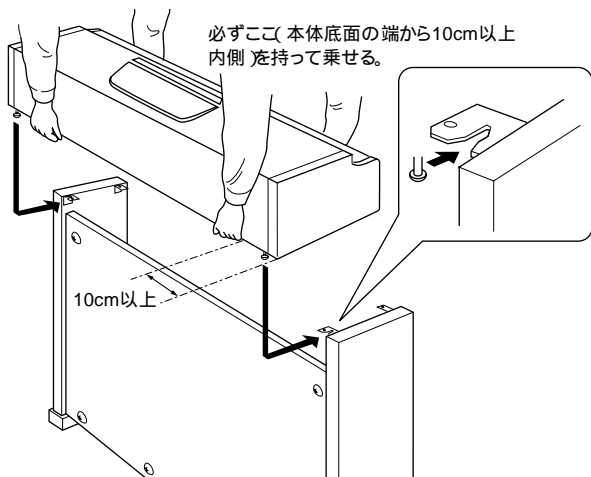
5 本体を乗せます。



指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分ご注意ください。

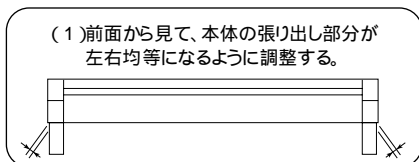


指定した位置以外を持たないでください。

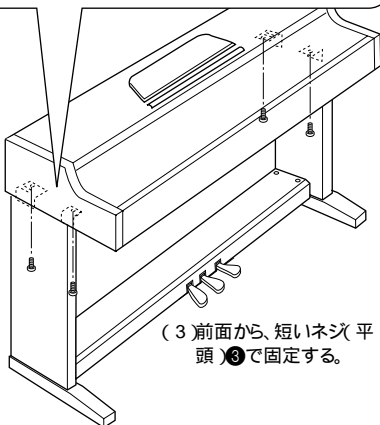


6 本体を固定します。

(1) 前面から見て、本体の張り出し部分が左右均等になるように調整する。

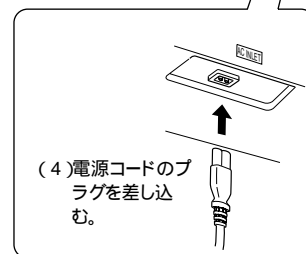
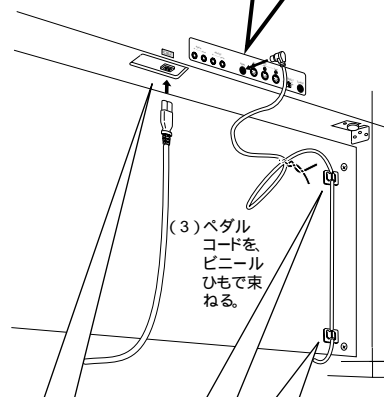
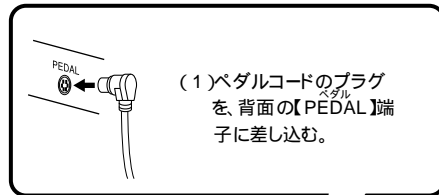


(2) 背面から、短いネジ(平頭)③で固定する。

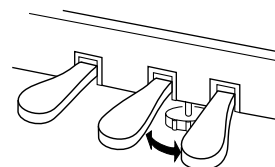


(3) 前面から、短いネジ(平頭)③で固定する。

7 コードを接続します。



8 アジャスターを回します。



アジャスターを回して、床にぴったりつける。

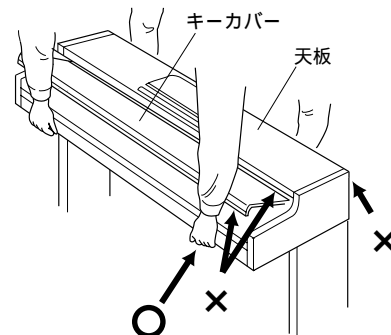
組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 部品が余っていませんか?
組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドア等がクラビノーバにあたりませんか?
クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか?
ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか?
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか?
確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。



天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



索引

- ・この取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、P7「目次」をご覧ください。
- ・ボタンの名前から説明を捜したい場合は、P12～P14「各部の名前」をご利用ください。
- ・ファンクション項目の説明を捜したい場合は、P35「ファンクション一覧表」をご利用ください。

そのほかのキーワードから説明を捜したい場合に、この「索引」をご利用ください。

- ・「*」印はそのページの「欄外注」に説明があることを示しています。

記号・ABC順

□の意味	6
▶の意味	6
ALL(ピアノ曲モード)	19
BC-15	4
DOU-10	59
HPE-160	59
MDP10	50
MIDI	41、45、51
MU100	59
Muma	50
rnα(ピアノ曲モード)	19
XGソングデータライブラリー	50

あいうえお順

音律	37
音量調節	9
片手練習(ピアノ50曲)	20
キーカバー	8
基本設定	16、54
共鳴効果	22、40
ご愛用者カード	4
工場出荷時の設定	16
再生(曲の)	33～34
再生OFFしたパートの音量調節(ピアノ50曲)	40
小項目(ファンクション)	35
ショートカット(F3.デュアルの諸設定)	39
ショートカット(F4.スプリットの諸設定)	39
ショートカット(F5./F6.外ローム音量の設定)	40
初期値(録音データ)とは---	31*
初期値(録音データ)の変更	32
シンクロスタート(曲の再生)	34
シンクロスタート(ピアノ50曲)	20
スプリットポイント	27
スプリットモード	27
セットアップデータとは---	41
リスタートペダル	22

ソフトペダル	23
ソングとは---	17*
大項目(ファンクション)	35
端子	44～45
ダンパーペダル	22
ダンパーモード	40
ディスクオーケストラ ユニット DOU-10	50、59
ディスプレイ	15
デモ曲	17
デモ曲/ピアノ曲モード	17～21
デュアルモード	26
電源	9
電源ランプ	9
トラックの再生ON/OFF(曲の再生)	33
トラックのデータの削除	30*
パーソナルコンピューター	46～47
バックアップとは---	16*
ピアノ50曲	19～21
ピアノ50曲の練習方法	20～21
ピアノ アソシエ	50
ピアノ アンサンブル	50
ピアノソフト	50
左のペダル	23
左ペダルスタート/ストップ	40
ファンクションとは---	16
ファンクションモード	35～43
深さ(エフェクト)	24
深さリバープ	23
付属品	4
部分練習(ピアノ50曲)	21
譜面立て	8
ヘッドフォン	44
保証書	4
まん中のペダル	23
右のペダル	22
メモリーとは---	16*
モードとは---	17*
モードの相関	17*、29*、33*、36*
録音モード	29～32

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6カ月です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

修理のご依頼

まず本書の「故障かな? と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50	ヤマハセンター内	TEL.(011)512-6108
仙台サービスステーション	〒983-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター3F	TEL.(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184		TEL.(044)434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL.(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.(06)6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL.(087)822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14		TEL.(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL.(092)472-2134

[本社]

カスタマーサービス部 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL.(053)465-1158

住所および電話番号は変更されることがあります。

ヤマハ株式会社

北海道地区	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	☎011-512-1550
東北地区	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル	☎022-222-6025
関東・甲信越地区	〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11	☎03-5488-5464
中部・北陸・静岡地区	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28	☎052-201-5145
大阪・近畿・四国・沖縄地区	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館	☎06-6252-2390
中国地区	〒730-8628 広島市中区紙屋町1-1-18	☎082-244-3748
九州地区	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4	☎092-472-2152
電子楽器事業部 営業部 / 国内営業第二グループ	〒430-8650 浜松市中沢町10-1	☎053-460-3275

住所および電話番号は変更になる場合があります。

クラビノーバ ポータブル楽器 インフォメーションセンター

受付日：月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間：10:00～12:00 / 13:00～17:00

フリーダイヤル  **0120-834808**

クラビノーバ インターネットホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/cl/>



この取扱説明書は
エコマーク認定の
再生紙を使用しています。

この取扱説明書は
エコバルブ(ECF:無塩素系漂白バルブ)
を使用しています。